



UNIVERSITY OF THE RYUKYUS GUIDEBOOK 2020

琉球大学概要

2020年度

70th
2020年、開学70周年。

Contents

学長あいさつ	3	運営推進組織	16
開学 70 周年記念特集	4	グローバル教育支援機構／研究推進機構	
琉球大学基金	6	地域連携推進機構／ダイバーシティ推進本部	
組織図	7	大学評価 IR マネジメントセンター／ハラスメント相談支援センター	
役職員	8	大学附属研究施設	18
概要（数字でみる琉球大学）	10	附属図書館・琉球大学病院	19
学部	12	学内共同教育研究施設	20
人文社会学部／国際地域創造学部／教育学部		教職センター・附属学校・学部附属教育研究施設	21
理学部／医学部／工学部／農学部		学士課程教育・大学院課程教育	22
大学院	14	研究	23
人文社会科学研究科／観光科学研究科／教育学研究科		地域連携事業	24
医学研究科／保健学研究科／理工学研究科		国際交流	26
農学研究科／法務研究科／鹿児島大学大学院連合農学研究科		学生支援	28
		キャンパスマップ	30

建学の精神

自由平等
寛容平和

基本理念

真理の探求
地域・国際社会への貢献
平和・共生の追求

－ 琉球大学の基本的な目標 －

1. 琉球大学の目指すところ－Vision－

本学は、「Land Grant University」の理念のもと、「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」を目指すとともに、本学の強みを発揮し、新しい学術領域である熱帯島嶼・海洋・医学研究の国際的な拠点として「アジア・太平洋地域の卓越した教育研究拠点大学」を目指します。

2. 長期ビジョンの実現に向けて－Mission－

本学は、草創期からの理念を生かし、沖縄や日本、世界に貢献できる教育研究拠点を形成します。

3. 第3期中期目標・中期計画の方針－Action－

本学は、地域活性化の中核的拠点となるべく社会変革にシなやかに対応できるイノベティブな大学としての歩みを加速します。

4. 地域社会・国際社会への貢献－Outcome－

【教育を通じた貢献】

国際的に通用する教育の質および学位の質を確保しつつ、幅広い教養を基礎とし、高度な専門知識と課題探求能力を糧に世界で活躍・貢献できる人材を育成します。

【研究を通じた貢献】

地域特性を踏まえた研究に基づく独創的な研究成果と新たな価値の創出、地域社会の発展に資する異分野融合や学際的な研究の推進を通じて、アジア・太平洋地域における中核的な学術研究拠点の形成を目指します。

【社会・国際連携を通じた貢献】

「ウチナーンチュ・ネットワーク」をはじめとするグローバル・ネットワークを活用し、産業界、行政機関ならびに国内外の大学・研究機関との連携を強化して、地域の活性化および国際化に貢献します。

【大学ガバナンス】

社会のニーズに対応するため、組織編成や財政基盤の強化、教育研究力の向上に資する組織を戦略的・機動的に展開し、自己点検・評価と外部評価を反映した大学運営を行います。



第17代学長

にしだ むつみ
西田 睦

略 歴 1972年 京都大学 農学部 水産学科 卒業
1977年 京都大学 大学院農学研究科
博士課程単位取得退学
1980年 琉球大学 理学部 海洋学科 助手
1991年 カリフォルニア大学 バークレー校
分子細胞生物学科 客員研究員
1992年 琉球大学 理学部 海洋学科 講師
1996年 福井県立大学 生物資源学部 教授
1999年 東京大学 海洋研究所 教授
2007年 東京大学 海洋研究所 所長
2013年 琉球大学 理事・副学長
2019年 4月より 琉球大学 第17代学長 就任

学 位 農学博士(京都大学)

専 門 海洋生物学、分子進化生物学

主 な 受 賞 生態学琵琶湖賞(1998年)
日本水産学会賞進歩賞(1999年)
Artemi Lecturer Award(2005年)
日本進化学会賞(2010年) など

主な学会活動・社会活動 日本魚類学会 会長
日本学術会議 連携会員
国立大学共同利用・共同研究拠点協議会 会長
など



～Island wisdom, for the world, for the future～

琉球大学は、戦後まもない1950年5月22日、多くの沖縄県民と海外の県系人らの熱意によって開学し、去る5月には、創立70周年を迎えました。

創立当初より、地域社会への貢献という精神を本学の基礎に据え、戦争によって荒廃した社会の復興を担う人材の輩出とともに、農業分野での技術指導、現職教員への英語教授法指導など、大学の知を地域社会へ還元することを熱心に行ってきたことは、本学の誇るべき歴史です。

わたしたちは今、新型コロナウイルス感染症という世界的な災難に見舞われています。世界中の国や地域で尊い人命が失われ、人々の安全が脅かされています。また、経済活動など社会に及ぼす影響は計り知れないものがあります。今、私たちは大きな転換期に立たされており、人類共通の課題を解決し新たな時代に向かうために、国や地域を超えて人々の叡智を集め、地球規模の協働を喫緊に必要としています。

この転換期の先導役として大学が担うべき役割は大きいと考えます。琉球大学は、タグライン（標語）に“Island wisdom, for the world, for the future”を掲げ、大学が叡智を創造・蓄積し、それを島の叡智として世界に、また、これからの未来のために活かしていくことを発信しています。また、上に掲げたコミュニケーションマークは、琉球大学の創り出した叡智が七つの海(世界)へ広がっていく様を表現したものであり、7色の色は多様性と協働性をも表現しています。大学が創り出す叡智には学問や文化が含まれますが、最も大切なものは“学生”です。琉球大学は、島の叡智によりこの転換期を乗り越え、新たな未来を切り拓くことのできる人材の育成に全力で取り組みます。

西 田 睦



写真で見る琉球大学の70年

開学前史

第2次世界大戦によって灰燼に帰した沖縄では、沖縄の復興を教育の振興に託す人々、向学の志に燃える高等学校の生徒、さらにはハワイの沖縄県人会、東京の沖縄人連盟等から大学設立の請願運動が展開され、全琉的な世論となり、遂に当時の米軍政府が1948年12月に、首里城跡に大学を設立することを決定した。大戦後の混乱した沖縄での大学開学の道のりは極めて困難であった。



首里城周辺の水玉模様のすさまじい着弾痕 1945年6月18日



文教学校と外国語学校のテント校舎 1946年
(仲里マサエ氏蔵 那覇市歴史博物館提供 『大琉球写真帖』より)

1946年(昭和21年)

沖縄県具志川村に前身ともいえる沖縄文教学校が開設（のちに沖縄外国語学校が分離独立）。

山城篤男らが大学設立期成会を結成、設立運動を開始。軍政府文教部長スチュワート少佐に大学設置について要請。

1948年(昭和23年)

12月、連合軍最高司令部の琉球局長ジョン・H・ウェッカリング准将が米国琉球軍政本部アーサー・E・ミード教育部長、沖縄民政府文教部長山城篤男と共に首里城跡等を視察し、首里城跡に4年制大学を設立することになった。

1950年(昭和25年) 琉球大学の開学

5月22日、英語学部、教育学部、社会科学部、理学部、農学部及び応用学芸学部の6学部、1・2年次あわせて562人の学生、44人の職員で開学し、同日、第1回入学式を挙行。

11月4日、志喜屋孝信が知事退任に伴い琉球大学の初代学長に就任。

1951年(昭和26年)

4月1日、工業試験場が民政府から琉球大学に移管され、琉球大学那覇工業指導所（那覇エクステンションセンター）と改称。

9月25日、米国教育評議会並びに陸軍省の教育計画により、本学にミシガン州立大学教授団「ミシガン・ミッション」が派遣され、新任式を執り行う。以降、1968年6月まで本学の教育行政及び研究活動等への助言・協力を行った。

1952年(昭和27年)

5月5日、琉球大学大島分校教育学部短期（2年）課程を設置。（大島エクステンションセンター）

1955年(昭和30年)

10月1日、琉球大学那覇エクステンションセンターを吸収して、農家政学部により普及事業が開始。以降、国立移行前の1972年3月までの17年間、農業の改良と農村生活の改善を目的に運営された。



開学まもない頃の大学の全景 1950年4月



開学記念式典であいさつの
辞をのべる志喜屋学長
1951年2月12日



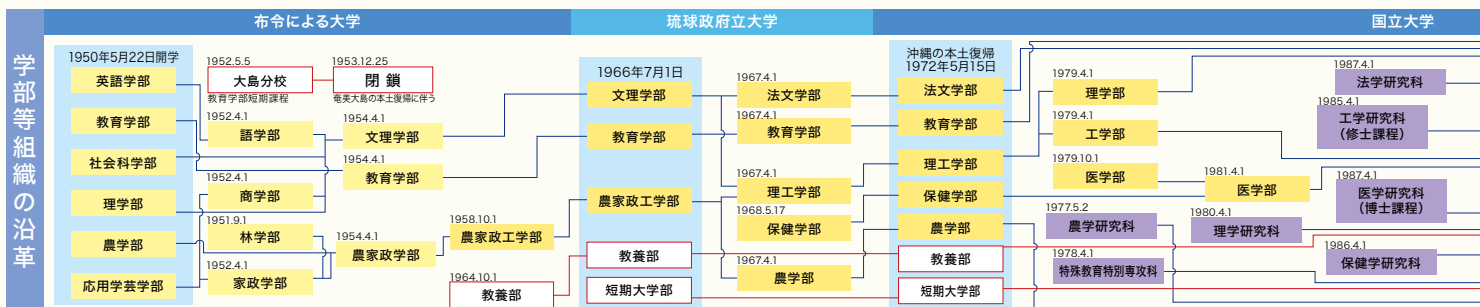
初期のミシガン州立大学
派遣教授団
1952年9月



琉大農家便り
(1955年12月創刊。
写真は1964年5月号)



第1回卒業式 1953年3月



1966年(昭和41年) 琉球政府立大学へ

7月1日、琉球大学設置法及び琉球大学管理法により、本学は琉球政府立大学となり、管理機関として琉球大学委員会を設置。
勤労学生を対象とした短期大学部（夜間・3年課程）を併設。

1970年(昭和45年)

9月、保健学部校舎が与儀キャンパスにて完成。



与儀キャンパス 1973年8月

1972年(昭和47年) 国立大学へ

5月15日、沖縄の本土復帰により、琉球大学及び同短期大学部は、国に移管され国立大学となった。

国に移行とともに琉球大学委員会が廃止され、職員の任命権が文部大臣に所属することになった。

1977年(昭和52年) キャンパスの移転

5月11日、農学部附属農場の千原団地への移転により移転開始。

1981年(昭和56年)

4月1日、教育学部附属小学校を設置（1982年4月1日小学生受け入れ）。

1984年(昭和59年)

4月11日、教育学部附属中学校を設置（1985年4月1日中学生受け入れ）。
8月2日、医学部附属病院の上原団地への移転をもって移転事業を完了。



民間アパートに開設した
移転整備促進室千原事務所
1975年



千原キャンパス移転工事（本部管理棟）
1981年4月27日



琉球大学千原キャンパス 2001年3月30日

※2011から現在

2004年(平成16年) 国立大学法人へ

4月1日、国立大学から国立大学法人となった。

2005年(平成17年)

4月1日、国立大学に先駆け、法文学部に観光科学科を設置。（2008年に観光産業科学部へ）



観光産業科学部看板掲式
2008年4月1日

これまでの10年

2011年(平成23年)

2月22日、男女共同参画宣言を発表。

2012年(平成24年)

4月、21世紀型市民を養成するために新カリキュラム：URGCC (University of the Ryukyus Global Citizen Curriculum) を導入。

2015年(平成27年)

1月1日、大学運営推進組織として研究推進機構を設置。

3月25日、ダイバーシティ推進宣言を発表。

4月1日、上原地区キャンパス移転推進室、ダイバーシティ推進本部、ジェンダー協働推進室を設置。

7月1日、既存の学内共同教育研究施設を統合し、グローバル教育支援機構を設置。

2016年(平成28年)

4月1日、既存の学内教育研究施設を統合し、COC事業及びCOC+事業を担う中核的な組織として地域連携推進機構を設立。

7月1日、広報戦略本部を設置。

2017年(平成29年)

4月1日、国際戦略本部を設置。

2018年(平成30年)

11月28日、ユニバーシティ・アイデンティティ（UI）を視覚的に表現したエンブレム、タイプフェイス、琉大マーク、コミュニケーションマーク、タグライン及びスクールカラーを制定。



2019年(平成31年)

4月1日、西田睦第17代学長へ。



琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

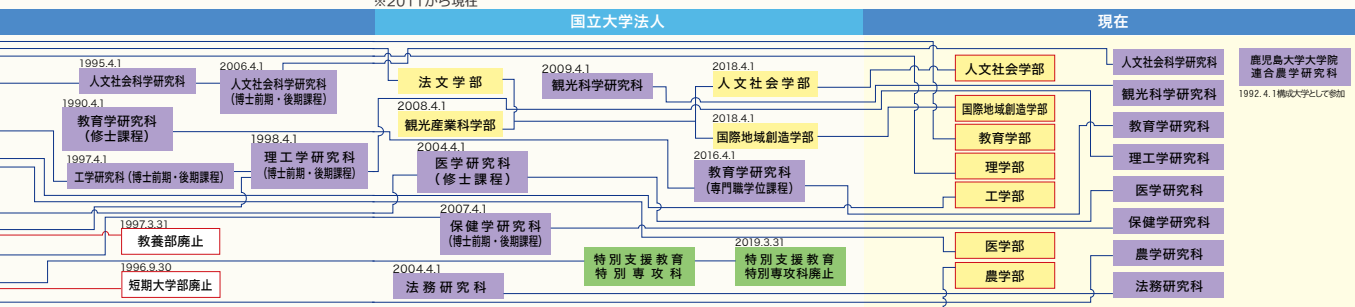
▲ 琉大マーク 2018年11月28日制定



漫画「琉大創作物語」
表紙 2019年4月発行



西田 睦 第17代学長
(2019年4月1日～)



基金による人材育成・地域貢献

琉球大学では、学生支援・教育研究活動を強化し、地域社会・国際社会へ還元していく事を目的に琉球大学基金を設置し、広く社会からいただいた寄附金による支援事業を実施しています。使途を特定せず琉球大学基金運営委員会承認のもと事業が実施される琉球大学一般基金と、特定の使途を目的とした6つの特定基金が設置されています。



琉球大学一般基金

学生の支援・教育研究振興等の大学運営全般への支援を実施しています。

- ・学生の課外活動及び就職等への支援
- ・研究活動への支援
- ・社会との連携事業
- ・国際交流事業への支援



琉球大学修学支援基金

経済的に修学が困難な学生への支援として給付型奨学金等を実施しています。

- ・授業料、入学金又は寄宿料の全部又は一部を免除する事業
- ・学資金を貸与し、又は支給する事業等



琉球大学岸本遺贈基金

琉球大学岸本遺贈基金は、琉球大学5期卒業生で米国在住の岸本ファミリー個人慈善基金創設者・岸本正之氏が多摩子夫人と共に、地球自然環境保全に向けた教育・研究活動やグローバル人材養成等を目的として設立されました。

当基金は、米国にある岸本ファミリー個人慈善基金で管理・運用され、毎年20～50万ドルを基金元金に積み増し、2029年までに583万ドル(1ドル=120円換算で約7億円)規模のエンダウメント基金となる予定です。琉球大学へ運用益による毎年のご寄附をいただいております。平成30年度は下記の事業を実施しました。

- ・交換留学支援制度により海外協定校へ留学する学生に対する支援
- ・外国人留学生(特に太平洋島嶼地域から受入れ)に対する支援
- ・グローバル人材育成事業により海外の教育研究機関等に派遣する女子大学院生に対する支援



■岸本ご夫妻

沖縄健康医療推進基金

令和6年に西普天間住宅地区跡地へ移転予定の医学部及び琉球大学病院において、より快適で安全な医学教育・研究、診療環境の整備等の事業を実施しています。



琉球大学QUEST基金

琉球大学学生の国際交流支援のためにと本学卒業生からいただいた3億円の寄附金を主な原資として設置した基金です。

未来へつながる学生の探究心の向上に資する学生の教育研究活動推進に必要な事業支援のため、次の各種サポート事業を行い、多様な考えや価値観を許容し、寛容で柔軟な思考能力を持ったグローバル社会で活躍できる学生育成の支援を行っています。

- ・短期交換留学生(協定派遣)の生活サポート
- ・短期派遣研修プログラムサポート
- ・大学院学生の海外研究サポート
- ・短期交換留学生(協定受入)の生活サポート
- ・外国人留学生の生活サポート
- ・海外留学準備サポート(語学能力試験費用の助成)
- ・学生生活の支援等



琉球大学結転生(ゆいまーる)基金

沖縄県における母子家庭の生活レベルの格差は、子どもの貧困問題を生み出し、さらに教育、将来の生活の格差となり、世代を超えて更なる子どもの貧困を引き起こす「貧困の連鎖」という社会問題となっています。

沖縄県の教育・学術界を担っている、或いは県内において大企業に匹敵する雇用の機会を提供できる琉球大学として、この地域の問題について看過せずに、地域とともに解決に向けて取り組んでいます。

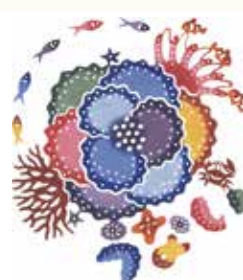
- ・母子家庭の母親の雇用創出
- ・母子家庭の子どもの就学支援



琉球大学うない女性研究者・リーダー育成基金

男女共同参画を推進し、次代を担う女性人材支援事業を実施しています。

- ・女子大学院生、学生への育成・支援
- ・若手女性研究者の研究力強化への支援
- ・女性研究者が安心して働ける職場環境の整備等



組織図



役職員

President, Executive Vice Presidents, Vice Presidents, Inspectors

学長・理事・副学長・副理事・監事

学長 President	西田 睦 NISHIDA, Mutsumi
理事・副学長（企画・研究） Executive Vice President for Planning and Research	木暮 一啓 KOGURE, Kazuhiro
理事・副学長（教育・学生支援） Executive Vice President for Education and Student Services	井上 章二 INOUE, Shoji
理事・副学長（地域貢献・国際交流・広報） Executive Vice President for Regional Contribution, International Exchange, and Public Relations	牛窪 潔 USHIKUBO, Kiyoshi
理事・副学長（病院長（病院・地域医療・キャンパス移転） Executive Vice President for Hospital, Community Health Care, and Campus Relocation / Director of University Hospital	大屋 祐輔 OHYA, Yusuke
理事・副学長（財務・施設・キャンパスマネジメント） Executive Vice President for Finance, Facilities, and Campus Management	福治 友英 FUKUJI, Yui
副理事・副学長（評価・IR） Vice President for Evaluation and Institutional Research	越野 泰成 KOSHINO, Yasunari
副理事・副学長（地域連携） Vice President for Regional Collaboration	竹村 明洋 TAKEMURA, Akihiro
副理事・副学長（法務・コンプライアンス） Vice President for Law and Compliance	宮尾 徹 MIYAO, Toru
監事 Inspector	嘉目 克彦 YOSHIME, Katsuhiko
監事（非常勤） Inspector(Part-time)	小池真由美 KOIKE, Mayumi

Assistants to the President

学長補佐

学長補佐（教育） Assistant to the President for University Education	岡崎 威生 OKAZAKI, Takeo
学長補佐（研究） Assistant to the President for Research Activities	山平 寿智 YAMAHIRA, Kazunori
学長補佐（産学官連携） Assistant to the President for Industry-Government-Academia Collaboration	瀬名波 出 SENAHA, Izuru
学長補佐（ダイバーシティ・国際連携） Assistant to the President for Diversity and International Collaboration	喜納 育江 KINA, Ikuo
学長補佐（ハラスメント防止） Assistant to the President for Prevention of Harassment	矢野 恵美 YANO, Emi
学長補佐（広報・周年事業） Assistant to the President for Public Relations and Anniversary Project	小西 照子 KONISHI, Teruko
学長補佐（上原地区キャンパス移転） Assistant to the President for Relocation of Uehara Campus	島居 剛志 SHIMAI, Tsuyoshi

Management Council

経営協議会

学長 President	西田 睦 NISHIDA, Mutsumi
株式会社琉球銀行 代表取締役会長 Chairman and Representative Director, Bank of the Ryukyus, Ltd.	金城 棟啓 KINJO, Tokei
沖縄県副知事 Deputy Governor of Okinawa Prefecture	謝花喜一郎 JAHANA, Kiichiro
当山法律事務所長 Director, Toyama Law Office	当山 尚幸 TOYAMA, Naoyuki
帝京大学 学務顧問・特任教授 Academic Advisor and Special Appointed Professor of Teikyo University	徳永 保 TOKUNAGA, Tamotsu
鈴鹿医療科学大学 学長 President, Suzuka University of Medical Science	豊田 長康 TOYODA, Nagayasu
前ケマーズ株式会社代表取締役社長 Former President of Chemours Japan	福原 修三 FUKUHARA, Shuzo
昭和薬科大学附属高等学校・中学校長 Principal, Showa Pharmaceutical University High School and Junior High School	諸見里 明 MOROMIZATO, Akira
同志社大学 教授 Professor, Doshisha University	山田 礼子 YAMADA, Reiko
理事・副学長（企画・研究） Executive Vice President for Planning and Research	木暮 一啓 KOGURE, Kazuhiro
理事・副学長（教育・学生支援） Executive Vice President for Education and Student Services	井上 章二 INOUE, Shoji
理事・副学長（地域貢献・国際交流・広報） Executive Vice President for Regional Contribution, International Exchange, and Public Relations	牛窪 潔 USHIKUBO, Kiyoshi

理事・副学長（病院長（病院・地域医療・キャンパス移転） Executive Vice President for Hospital, Community Health Care, and Campus Relocation / Director of University Hospital	大屋 祐輔 OHYA, Yusuke
理事・副学長（財務・施設・キャンパスマネジメント） Executive Vice President for Finance, Facilities, and Campus Management	福治 友英 FUKUJI, Yui
島嶼地域科学研究所教授 Director, Research Institute for Islands and Sustainability	藤田 陽子 FUJITA, Yoko

Council of Education and Research

教育研究評議会

学長 President	西田 睦 NISHIDA, Mutsumi
理事・副学長（企画・研究） Executive Vice President for Planning and Research	木暮 一啓 KOGURE, Kazuhiro
理事・副学長（教育・学生支援） Executive Vice President for Education and Student Services	井上 章二 INOUE, Shoji
理事・副学長（地域貢献・国際交流・広報） Executive Vice President for Regional Contribution, International Exchange, and Public Relations	牛窪 潔 USHIKUBO, Kiyoshi
理事・副学長（病院長（病院・地域医療・キャンパス移転） Executive Vice President for Hospital, Community Health Care, and Campus Relocation / Director of University Hospital	大屋 祐輔 OHYA, Yusuke
理事・副学長（財務・施設・キャンパスマネジメント） Executive Vice President for Finance, Facilities, and Campus Management	福治 友英 FUKUJI, Yui
人文社会学部部長 Dean, Faculty of Humanities and Social Sciences	安藤 由美 ANDO, Yoshimi
国際地域創造学部部長 Dean, Faculty of Global and Regional Studies	石原 昌英 ISHIHARA, Masahide
教育学部部長 Dean, Faculty of Education	萩野 敦子 HAGINO, Atsuko
理学部部長 Dean, Faculty of Science	山崎 秀雄 YAMASAKI, Hideo
医学部部長 Dean, Faculty of Medicine	石田 肇 ISHIDA, Hajime
工学部部長 Dean, Faculty of Engineering	和田 知久 WADA, Tomohisa
農学部部長 Dean, Faculty of Agriculture	和田 浩二 WADA, Koji
観光科学研究科長 Dean, Graduate School of Tourism Sciences	越智 正樹 OCHI, Masaki
保健学研究科長 Dean, Graduate School of Health Sciences	小林 潤 KOBAYASHI, Jun
法務研究科長 Dean, Graduate School of Law	清水 一成 SHIMIZU, Kazushige
附属図書館長 Director, University Library	藤田 陽子 FUJITA, Yoko

グローバル教育支援機構副機構長 Vice Director, Global Education Institute	小野寺清光 ONODERA, Kiyomitsu
人文社会学部教授 Professor, Faculty of Humanities and Social Sciences	阿部 小涼 ABE, Kosuzu
教育学部教授 Professor, Faculty of Education	廣瀬 等 HIROSE, Hitoshi
理学部教授 Professor, Faculty of Science	藤井 道彦 FUJII, Michihiko
医学研究科教授 Professor, Graduate School of Medicine	高山 千利 TAKAYAMA, Chitoshi
工学部教授 Professor, Faculty of Engineering	藤井 智史 FUJII, Satoshi
農学部教授 Professor, Faculty of Agriculture	中村 真也 NAKAMURA, Shinya
熱帯生物圏研究センター長 Director, Tropical Biosphere Research Center	松崎 吾朗 MATSUZAKI, Goro

University President Election Committee

学長選考会議

株式会社琉球銀行代表取締役会長 Chairman and Representative Director, Bank of the Ryukyus, Ltd.	金城 棟啓 KINJO, Tokei
沖縄県副知事 Deputy Governor of Okinawa Prefecture	謝花喜一郎 JAHANA, Kiichiro
当山法律事務所長 Director, Toyama Law Office	当山 尚幸 TOYAMA, Naoyuki

帝京大学 学務顧問・特任教授 Academic Advisor and Special Appointed Professor of Teikyo University	徳永 保 TOKUNAGA, Tamotsu
---	---------------------------

鈴鹿医療科学大学 学長 President, Suzuka University of Medical Science	豊田 長康 TOYODA, Nagayasu
前ケマーズ株式会社代表取締役社長 Former President of Chemours Japan	福原 修三 FUKUHARA, Shuzo
昭和薬科大学附属高等学校・中学校長 Principal, Showa Pharmaceutical University High School and Junior High School	諸見里 明 MOROMIZATO, Akira
同志社大学教授 Professor, Doshisha University	山田 礼子 YAMADA, Reiko
人文社会学部部長 Dean, Faculty of Humanities and Social Sciences	安藤 由美 ANDO, Yoshimi
国際地域創造学部部長 Dean, Faculty of Global and Regional Studies	石原 昌英 ISHIHARA, Masahide
教育学部部長 Dean, Faculty of Education	萩野 敦子 HAGINO, Atsuko
理学部部長 Dean, Faculty of Science	山崎 秀雄 YAMASAKI, Hideo
医学部部長 Dean, Faculty of Medicine	石田 肇 ISHIDA, Hajime
工学部部長 Dean, Faculty of Engineering	和田 知久 WADA, Tomohisa
農学部部長 Dean, Faculty of Agriculture	和田 浩二 WADA, Koji
法務研究科長 Dean, Graduate School of Law	清水 一成 SHIMIZU, Kazushige
理事・副学長（企画・研究） Executive Vice President for Planning and Research	木暮 一啓 KOGURE, Kazuhiro
理事・副学長（教育・学生支援） Executive Vice President for Education and Student Services	井上 章二 INOUE, Shoji

Special Advisor

特別顧問

琉球大学名誉教授 Professor Emeritus, University of the Ryukyus	大城 肇 OSHIRO, Hajime
---	------------------------

Advisors

顧問

琉球大学名誉博士 Honorary Doctor, University of the Ryukyus	ナカソネ ロバートシオ NAKASONE, Robert Toshio
琉球大学名誉博士 Honorary Doctor, University of the Ryukyus	クバエドワード マサユキ KUBA, Edward Masayuki

Management- Promotion Organizations

運営推進組織

グローバル教育支援機構長 Director, Global Education Institute	井上 章二 INOUE, Shoji
研究推進機構長 Director, Organization for Research Promotion	木暮 一啓 KOGURE, Kazuhiro
地域連携推進機構長 Director, Organization for Regional Collaboration	牛窪 潔 USHIKUBO, Kiyoshi
亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構長 Director, Transdisciplinary Research Organization for Subtropics and Island Studies	竹村 明洋 TAKEMURA, Akihiro
ダイバーシティ推進本部長 Director, Office for the Promotion of Diversity	井上 章二 INOUE, Shoji
広報戦略本部長 Director, Public Relations Strategy Office	牛窪 潔 USHIKUBO, Kiyoshi
国際戦略本部長 Director, Executive Office for Global Vision and Implementation	牛窪 潔 USHIKUBO, Kiyoshi
上原地区キャンパス移転推進本部長 Director, Promotion of Relocation of Uehara Campus	大屋 祐輔 OHYA, Yusuke
企画経営戦略会議議長 Chair, Planning and Management Strategy Committee	西田 睦 NISHIDA, Mutsumi
自己点検・評価会議委員長 Chair, Internal Assessment and Evaluation Committee	越野 泰成 KOSHINO, Yasunari
病院長候補者選考会議長 Chair, Election Committee for Hospital Director Candidate	木暮 一啓 KOGURE, Kazuhiro
大学評価 IR マネジメントセンター長 Director, University Evaluation IR Management Center	越野 泰成 KOSHINO, Yasunari
ハラスメント相談支援センター長 Director, Harassment Counseling and Support Center	矢野 恵美 YANO, Emi

Main Administration

大学本部	
総合企画戦略部長 Director, General Strategic Planning Division	満尾 俊一 MITSUO, Shunichi
経営戦略課長 Head, Management Strategy Section	平良 喜彦 TAIRA, Yoshihiko
研究推進課長 Head, Research Promotion Section	大塚 克威 OTSUKA, Katsutaka
地域連携推進課長 Head, Regional Collaboration Promotion Section	仲里 隆司 NAKAZATO, Ryuji
国際連携推進課長 Head, International Collaboration Section	金城かおり KINJO, Kaori
総務部長 Director, General Affairs Division	石井 康雄 ISHII, Yasuo
総務課長 Head, General Affairs Section	金城 徹 KINJO, Toru
人事企画課長 Head, Human Resources Planning Section	比嘉 盛也 HIGA, Moriya
職員課長 Head, Personnel Welfare Section	上原比呂美 UEHARA, Hiromi
情報企画課長 Head, Information Planning Section	吉原 安久 YOSHIHARA, Yasuhisa
財務部長（併任） Director, Finance Division(concurrent post)	島居 剛志 SHIMAI, Tsuyoshi
財務企画課長 Head, Finance Planning Section	桐島 孝 KIRISHIMA, Takashi
経理課長 Head, Accounting Section	兼久 和也 KANEKU, Kazuya
学生部長 Director, Student Affairs Division	金澤 哲哉 KANAZAWA, Tetsuya
教育支援課長 Head, Academic Support Section	宗本 涼子 MUNEMOTO, Ryoko
学生支援課長 Head, Student Support Section	城間 弘充 SHIROMA, Hiromitsu
入試課長 Head, University Admissions Section	湧川ひろみ WAKUGAWA, Hiromi
国際教育課長 Head, Global Education Section	神谷真智子 KAMIYA, Machiko
施設運営部長 Director, Facility Management Division	齋藤 幸司 SAITO, Koji
施設企画課長 Head, Facility Planning Section	栗本 和良 KURIMOTO, Kazuyoshi
計画整備課長 Head, Planning and Maintenance Section	徳永 祐太 TOKUNAGA, Yuta
環境整備課長 Head, Environmental Management Section	宮下 秩 MIYASHITA, Satoshi
移転整備室長 Head, Office for Uehara Campus Relocation	岩井 康雄 IWAII, Yasuo
大学本部付次長 Deputy Director, Headquarter	湧川 均 WAKUGAWA, Hitoshi
上原地区キャンパス移転推進室長 Head, Office for the Promotion of Relocation of Uehara Campus	金城 光彦 KINJO, Mitsuhiko
企画調整役（企画・RPA 担当） Planning Coordinator for Planning and Robotic Process Automation	前島 修 MAEJIMA, Osamu

Fund Management Office

基金室	
基金室長（併任） Head, Fund Management Office(concurrent post)	石井 康雄 ISHII, Yasuo

Auditing Office

監査室	
監査室長 Head, Auditing Office	棚原 淳治 TANAHARA, Junji

Faculties/Graduate Schools

学部・大学院	
人文社会学部長・人文社会科学研究所長 Dean, Faculty of Humanities and Social Sciences / Graduate School of Humanities and Social Science Research	安藤 由美 ANDO, Yoshimi
法務研究科長 Dean, Graduate School of Law	清水 一成 SHIMIZU, Kazushige
人文社会学部事務長 Head, Administration Division of Faculty of Humanities and Social Sciences	金城 邦夫 KINJO, Kunio
国際地域創造学部部長 Dean, Faculty of Global and Regional Studies	石原 昌英 ISHIHARA, Masahide
観光科学研究科長 Dean, Graduate School of Tourism Sciences	越智 正樹 OCHI, Masaki
国際地域創造学部事務長 Head, Administration Division of Faculty of Global and Regional Studies	久保田隆弘 KUBOTA, Takahiro

教育学部長・教育学研究科長 Dean, Faculty of Education / Graduate School of Education	萩野 敦子 HAGINO, Atsuko
教育学部事務長 Head, Administration Division of Faculty of Education	許田 正勝 KYODA, Masakatsu
理学部長 Dean, Faculty of Science	山崎 秀雄 YAMASAKI, Hideo
理学部事務長 Head, Administration Division of Faculty of Science	仲宗根 勉 NAKASONE, Tsutomu
医学部長・医学研究科長 Dean, Faculty of Medicine / Graduate School of Medicine	石田 肇 ISHIDA, Hajime
保健学研究科長 Dean, Graduate School of Health Sciences	小林 潤 KOBAYASHI, Jun
上原キャンパス事務部長 Director, Administration Division of Uehara Campus	鬼村 博幸 ONIMURA, Hiroyuki
上原キャンパス事務部総務課長 Head, General Affairs Section, Uehara Campus	金城不二子 KINJO, Fujiko
上原キャンパス事務部企画課長 Head, Management Planning Section, Uehara Campus	小渡志保子 ODO, Shihoko
上原キャンパス事務部管理課長 Head, Accounting Section, Uehara Campus	照屋 智 TERUYA, Satoshi
上原キャンパス事務部医事課長 Head, Medical Affairs Section, Uehara Campus	高橋 圭郎 TAKAHASHI, Keiro
上原キャンパス事務部学務課長 Head, Academic Affairs Section, Uehara Campus	野原 茂 NOHARA, Shigeru
工学部長・理工学研究科長 Dean, Faculty of Engineering / Graduate School of Engineering and Science	和田 知久 WADA, Tomohisa
工学部事務長 Head, Administration Division of Faculty of Engineering	玉山 浩 TAMAYAMA, Hiroshi
農学部長・農学研究科長 Dean, Faculty of Agriculture / Graduate School of Agriculture	和田 浩二 WADA, Koji
農学部事務長（併任） Head, Administration Division of Faculty of Agriculture (concurrent post)	湧川 均 WAKUGAWA, Hitoshi

University Research Centers

大学附属研究施設	
熱帯生物圏研究センター長 Director, Tropical Biosphere Research Center	松崎 吾朗 MATSUZAKI, Goro
島嶼地域科学研究所長 Director, Research Institute for Islands and Sustainability	藤田 陽子 FUJITA, Yoko
島嶼防災研究センター長 Director, Disaster Prevention Research Center for Island Region	カストロ ホワン ホセ CASTRO Juan Jose

Joint Usage / Research Center

共同利用・共同研究拠点	
熱帯生物圏研究センター長 Director, Tropical Biosphere Research Center	松崎 吾朗 MATSUZAKI, Goro

University Library

附属図書館	
附属図書館長 Director, University Library	藤田 陽子 FUJITA, Yoko
医学部分館長 Director, Medical Library	金城 貴夫 KINJO, Takao
事務部長 Director, Administration Division	熊渕 智行 KUMABUCHI, Tomoyuki
情報管理課長 Head, Information Management Section	渡名喜一夫 TONAKI, Kazuo
情報サービス課長 Head, Information Service Section	坂本 祐一 SAKAMOTO, Yuichi

University Hospital

病院	
病院長 Director, University Hospital	大屋 祐輔 OHYA, Yusuke

Interdepartmental Institutes for Education and Research

学内共同教育研究施設	
研究基盤センター長 Director, Center for Research Advancement and Collaboration	平井 到 HIRAI, Itaru
総合情報処理センター長 Director, Computing and Networking Center	古川 雅英 FURUKAWA, Masahide
博物館（風樹館）長 Director, University Museum (Fujukan)	立田 晴記 TATSUTA, Haruki

Center for Teacher Education

教職センター	
教職センター長 Director, Center for Teacher Education	上地 完治 UECHI, Kanji

Affiliated Schools

附属学校	
教育学部附属小学校長 Principal, Faculty of Education-Affiliated Elementary School	島袋 優 SHIMABUKURO, Masaru
教育学部附属中学校長 Principal, Faculty of Education-Affiliated Junior High School	比嘉 智也 HIGA, Tomoya

Faculty-Affiliated Facilities for Education and Research

学部附属教育研究施設	
医学部附属実験実習機器センター長 Director, Faculty of Medicine Research Laboratory Center	筒井 正人 TSUTSUI, Masato
医学部附属動物実験施設長 Director, Faculty of Medicine Institute for Animal Experiments	高山 千利 TAKAYAMA, Chitoshi
工学部附属工作工場長 Director, Faculty of Engineering Manufacturing Laboratory	野底 武浩 NOSOKO, Takehiro
農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター長 Director, Faculty of Agriculture Subtropical Field Science Center	内藤 重之 NAITOH, Shigeyuki

Officials of Affiliated Organizations

関係組織役職員	
University of the Ryukyus Foundation	
琉球大学後援財団	
理事長 President	金城 棟啓 KINJO, Toki
理事 Director	小禄 邦男 OROKU, Kunio
理事 Director	大城 肇 OSHIRO, Hajime
理事 Director	上地 英由 UECHI, Eiyou
理事 Director	比嘉 正輝 HIGA, Masateru
理事 Director	島袋 清人 SIMABUKURO, Kiyohito
理事 Director	安里 哲好 ASATO, Tetsuyoshi
理事 Director	呉屋 守章 GOYA, Moriaki
理事 Director	西田 睦 NISHIDA, Mutsumi
理事 Director	山城 正保 YAMASHIRO, Masayasu
理事 Director	牛窪 潔 USHIKUBO, Kiyoshi
理事 Director	早瀬 京铸 HAYASE, Keiju
理事 Director	新田 早苗 NITTA, Sanae
監事 Auditor	中山 恭子 NAKAYAMA, Kyoko
監事 Auditor	新田 恭子 NITTA, Kyoko

University of the Ryukyus Alumni Association

琉球大学同窓会	
会長 Chair	幸喜 徳子 KOKI, Noriko
副会長 Vice-Chair	新城 勇 SHINJO, Isamu
副会長 Vice-Chair	長浜まさ子 NAGAHAMA, Masako
副会長 Vice-Chair	石川 清勇 ISHIKAWA, Seiyu
副会長 Vice-Chair	玉城きみ子 TAMAKI, Kimiko
副会長 Vice-Chair	渡久山秀治 TOKUYAMA, Hideji
事務局長 Secretary-General	仲田 洋一 NAKADA, Yoichi

(2020年7月31日現在)

数字でみる琉球大学

学部 (2020年度)

人文社会学部	3学科
国際地域創造学部	1学科
教育学部	1課程
理学部	3学科
医学部	2学科
工学部	1学科
農学部	4学科

7学部
14学科 1課程



大学院 (2020年度)

人文社会科学研究科
観光科学研究科
教育学研究科
医学研究科
保健学研究科
理工学研究科
農学研究科
法務研究科
鹿児島大学大学院連合農学研究科
外国人留学生特別プログラム

9研究科
(鹿児島大学大学院連合農学研究科を含む)
4プログラム



図書館 (2019年度)

和漢書	671,790	971,529冊
洋書	299,739	
和雑誌(種)	14,253	21,669種
洋雑誌(種)	7,416	
入館者数		431,007人



学位取得者数 (2019年度)

学部学生	1,538
大学院生(修士)	216
大学院生(博士)	31
大学院生(専門職学位)	25

1,810人

学生数 (2020年5月1日現在)

学部学生	7,094
大学院生(修士・博士前期課程)	477
大学院生(博士・博士後期課程)	334
専門職学位課程	87

7,992人

就職率 (2019年度)

※就職率は就職希望者に対する就職者の割合

学部	95.6%
修士・博士前期課程	95.6%
博士・博士後期課程	86.4%



役員・教職員数 (2020年5月1日現在)

学長	1	教諭	54
理事・監事	7	事務・技術系	1,463
教授	287	合計	2,345人
准教授	254		
講師	71		
助教	208		

研究 (2019年度)

■科学研究費助成事業採択状況

採択件数 274件

受入額 6億73万円

■特許実績

出願件数 16件 保有件数(累計) 72件

国際交流 (2019年度)

■交流協定大学・機関数

大学間交流78校
部局間交流43校

合計 **121** 校

■交換留学生数

受入 **101** 人

派遣 **48** 人

■研究者の交流

本学研究者の
海外派遣

559 人

外国人研究者の
受入れ

179 人

■留学生数 (2019年5月1日現在)

学部生 **59**

研究生 **15**

大学院生 **130**

特別聴講学生 **69**

科目等履修生 **22**

特別研究学生 **5**



合計 **300** 人

地域・社会貢献 (2019年度)

日経グローバル大学地域貢献度ランキング

全国第 **8** 位

(※755の国公立大学を対象)

・分野別ランキング

「組織・制度」1位、「学生・住民」9位、「企業・行政」14位、

「グローバル」41位、「働く場」43位



敷地面積 (2019年度)

千原地区 **1,123,616** 与那地区 **8,867**

(借地 3,183,810㎡)

上原地区 **139,169**

石嶺地区 **20,787**

奥地区 **107,382**

志真志地区 **20,308**

瀬底地区 **25,759**

前田地区 **6,674**

西表地区 **3,953**

西普天間地区 **88,727**

(借地 1,989,792㎡)

合計 **1,545,242** ㎡
(借地 5,173,602㎡)

琉球大学病院 (2019年度)

診療科目

・内科(結核含む) ・耳鼻咽喉科
・外科 ・眼科
・脳神経外科 ・精神科神経科
・整形外科 ・放射線科
・形成外科 ・麻酔科
・産科婦人科 ・歯科口腔外科
・小児科 ・病理診断科
・皮膚科 ・救急科
・腎泌尿器外科 ・リハビリテーション科

病床数・患者数

病床数 **600** 床

・外来患者延数

294,626 人

・1日平均外来患者数

1,227.6 人

・入院患者延数

190,673 人

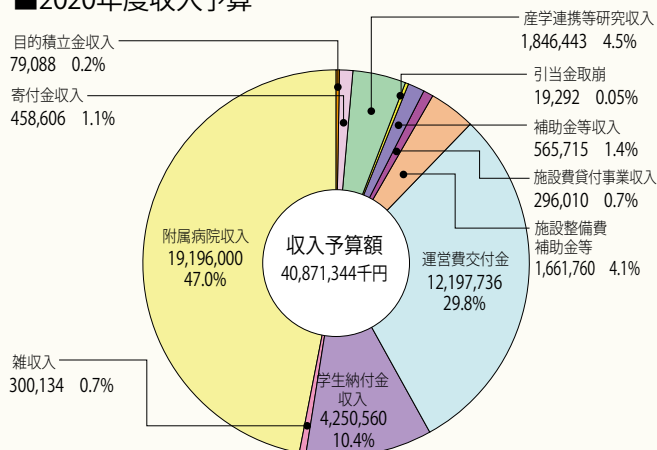
・1日平均入院患者数

521.0 人

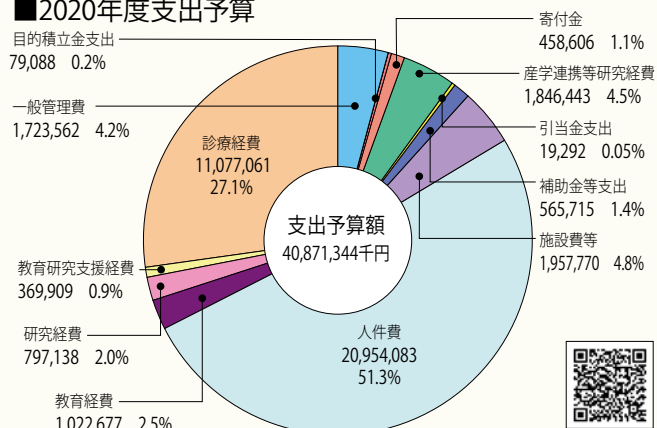


予算規模

■2020年度収入予算



■2020年度支出予算



深い学識と豊かな人間性をベース

人文社会学部

学部長 安藤 由美

多様な社会や文化と共生しつつ、沖縄を始めとする地域社会の持続的発展に貢献できる人材を養成する

人文社会学部は、国際法政学科、人間社会学科、琉球アジア文化学科の3つの学科からなり、人文科学・社会科学の専門的、学際的な分野において真理を探究し、それを基に、個人の尊厳と基本的人権を尊重する平和・共生社会の形成者、社会全体の持続的発展に寄与する人材の育成を目指しています。

法学、政治・国際関係学、哲学・教育学、心理学、社会学、琉球とアジアを中心とする歴史・民俗学、言語学、文学の8つのプログラムを提供しながら、学問の枠組みを超えるような総合的・学際的な教育体制を整えています。

特徴ある研究分野として、琉球史や琉球諸語研究があげられ、世界的な研究の中心となっています。



国際地域創造学部

学部長 石原 昌英

「専門基盤力と地域国際基盤力」を身につけ、複雑化・多様化する国際及び地域課題に挑戦し、解決する高い専門能力を有する人材を養成する

2018年度(平成30年度)から、法文学部の4専攻課程、観光産業科学部の2学科の組織を再編してスタートした国際地域創造学部は、複合分野(観光、経営、経済、文学・言語、地理・歴史・人類学)の学際的学び及び各専門分野における体系的な学びを通して、「専門基盤力と地域国際基盤力」を身につけ、複雑化・多様化する国際課題及び地域課題に挑戦し、解決する高い専門能力を有する人材を養成する教育・研究を行うことを目的としています。

観光地域デザイン、経営、経済学、国際言語文化及び地域文化科学の5つのプログラムからなり、地域性と国際性を合わせた複眼的思考によって、「地域振興」、「産業振興」、「文化振興」に貢献できる人材の育成をめざす「未来志向型の教育」を展開していきます。



教育学部

学部長 萩野 敦子

地域に目を向け、教育現場に根ざした理論と実践を兼ね備えた専門家を養成する

教育学部は、学校教育教員養成課程で小学校と中学校、及び特別支援学校の教員を養成することを目的としています。この課程の修了者は小学校一種、もしくは中学校一種の教員免許状、さらには特別支援学校一種の教育免許状を取得します。

カリキュラムは主に、小中学校の教員(特別支援教育を含む)や教育関係の専門家になるための確かな理論と方法、そして実践力を得ることを重視し、そのために特に附属小中学校や市町村の公立学校、その他関係機関と密接に連携することに力を入れています。さまざまな関係教育機関などに参加体験することで、地域で活躍できる人材を養成できると考えています。



に地域と国際社会で活躍できる人材を育成

理学部

学部長 山崎 秀雄

基礎科学の英知で「無理」を「夢理」に変える未来創造の学舎

理学部は、真理探究を唯一の目的とするのではなく、基礎科学の英知を持って地域社会と国際社会に貢献することも重要なミッションだと考えています。沖縄の持つ特異な歴史的背景と、亜熱帯島嶼の自然探究を通して、本学部はサンゴ礁科学のような他に比類なき個性を国内外に発揮してきました。現在、数学、物理、地学、化学、生物の5分野の教育研究を、数理科学科、物質地球科学科、海洋自然科学科の3学科で行っています。時代の要請に従って自らの形と役割を変化させてきた理学部には定型はありません。

理学部は、基礎科学の英知を駆使して「無理」を「夢理」に変えることができる未来創造型人材の育成を目指しています。



医学部

学部長 石田 肇

医学・医療の進歩に柔軟に対応しつつ、さらに高いレベルを目指す国際的人材を養成する

医学部は、医学と保健学に関する専門の知識と技術を修得し、高い倫理性を身に付け、医学・医療の進歩や社会的課題に柔軟に対応できる医師、研究者、保健・医療技術者を育成することを目的としています。島嶼地域医療の充実をはじめ、地域住民の医療、福祉、保健の向上に貢献するとともに、国際性豊かな医学部として東南アジアを主とする諸外国との学術交流及び保健・医療協力に寄与しています。このため、教育においては国際医療や離島医療を含む地域医療の場でリーダーシップを発揮できる医療人の養成を目的とした特色ある教育を実施しています。

これらを通じて、国際性豊かな医学部としてアジア・太平洋地域の国々での国際医療協力を積極的に推進しています。



工学部

学部長 和田 知久

地域社会や産業構造の変革と新産業創出に貢献できるグローバルな人材を育成する

工学部は1学科7コース体制(機械工学、エネルギー環境工学、電気システム工学、電子情報通信、社会基盤デザイン、建築学、知能情報)を展開し、従来の枠にとらわれない幅広い視野、基礎学力と専門技術力、社会的ニーズに対応できる実践力を身につけることが可能となっています。

さらにグローバル化に対応し、特定の分野に優れたリーダーの人材を育成することを目的として、大学院博士前期課程を含む6年一貫教育グローバルエンジニアプログラム(GEプログラム)を開始しました。工学部では、このような教育を通して、地域の産業を牽引し、製造(次世代型ものづくり)、エネルギー、情報通信、建設、環境、防災、電力などの産業に新たな価値を創造しつつ、社会のグローバル化に対応できる人材の育成を目指しています。



農学部

学部長 和田 浩二

亜熱帯地域の条件を活かした、バイオサイエンスのフロンティアをめざして

農学部は、我が国で唯一亜熱帯地域に立地している農学部であり、亜熱帯地域農学科、亜熱帯農林環境科学科、地域農業工学科および亜熱帯生物資源科学科の4つの学科に14の教育コースが設置されています。

本学部は、沖縄の亜熱帯島嶼性という特性を最大限に活かし、生物の生存環境と人間の共生を目指して、持続的食料生産、地域農業、環境保全、生物資源・エネルギー利用、栄養・健康・長寿および発酵・生命に関する教育と研究を行い、地域社会ならびに国際社会の発展に貢献できる人材の育成を目指しています。

農学は自然科学と社会科学の基礎から応用までを包含する総合科学です。その特性を考慮し、授業科目は講義、演習、実験、実習、セミナーをバランス良く組み合わせてカリキュラムを編成しています。



地域の特性を活かし、より高度な

人文社会科学研究科

(博士前期課程) (博士後期課程)

研究科長 安藤 由美

高度な分析能力と実践的判断力を持つ 専門職業人を育成

人文社会科学研究科では、社会人大学院生も受け入れ、そのニーズに対応するために夜間及び土曜日にも授業を行っています。学生の能力や研究課題に応じて専攻や研究科を超えた広範囲な科目履修が可能です。

博士前期課程では、高度な人文社会科学を体系的に展開する教育体制を整え、変動する現代社会の問題や課題に柔軟に対応できる、高度な分析能力と実践的判断力を持つ専門職業人を育成することを目的としています。

博士後期課程では、琉球・沖縄研究、日本研究を中心としつつも他の地域をも含む世界の諸地域を対象とし、「比較」の観点を備えた人文社会科学の分野で主導的役割を担うことのできる研究者を養成します。



教育学研究科

(専門職学位課程)

研究科長 萩野 敦子

学校現場における高度な実践的指導力とリーダーシップを発揮できる人材の養成

教育学研究科は、修士課程と専門職学位課程(教職大学院)との二本立てでその教育課程を編成してきました。ただ、多様な教育の場で専門的力量とリーダーシップを発揮できる教育人材の養成を担ってきた修士課程は、令和2年度から学位課程としては廃止され、教育学研究科は教職大学院に一元化します。

教職大学院は今まで、学校マネジメント、教科指導、生徒指導、学級経営などについてのより高度な実践的指導力の修得を目指した教育課題を提供してきましたが、今後は修士課程の財産を生かして、教科領域の実践的指導力育成をさらに増強するかたちで再編成されることになります。

※在学生がいる間は、修士課程の教育組織は存続します。



観光科学研究科

(修士課程)

研究科長 越智 正樹

さまざまな分野に関連する観光学を学際的な視野で考える力を養う

観光科学研究科の特色は、学際的かつ専門的な知識を身につける事ができる教育プログラムにあります。この教育プログラムでは、サステナビリティ(持続可能性)を観光学の基礎に位置づけ、ツーリズム・ビジネス、ツーリズム・デベロップメント、ツーリズム・リソースマネジメントの3領域に関する基礎的知識を修得し、さらに1領域に関して深く研究することとしています。また、日本を代表する観光地である、沖縄の地域特性に関する授業を開講しています。本研究科は観光立国の実現に向けて、海外、日本、そして沖縄県において観光振興の牽引役と成る高度な専門職業人の育成を目的としています。



医学研究科

(修士課程) (博士課程)

研究科長 石田 肇

多様なニーズに対応し、変化に対応できる力を備えた人材を育成

医学研究科は、医学分野全般において特色ある研究を通して近年の医学・医療のダイナミックな変化に対応できる自己改新力と生涯持続力を持った優れた人材を育成することを目的としています。

本研究科では社会人大学院生や、医学部以外の人材も幅広く募集し、大学卒業歴を問わず資格審査で学生を受け入れており、社会人学生にも受講しやすいよう、夜間講義を実施しているほか、講義日以外にも、DVD等による講義の聴講も可能にしています。生活環境に合わせて履修できる長期履修制度や、修士課程から博士課程まで最長4年で修了可能な早期修了制度も準備しています。



保健学研究科 (博士前期課程) (博士後期課程)

研究科長 小林 潤

心身の健康・長寿を探究するグローバルな研究者、指導者を養成

保健学研究科は、グローバルな教育と研究を進めています。沖縄での知見を海外に還元する視野をもち沖縄で研究すること、また沖縄と対比させて海外での研究を実施していくことの両面です。これらの視点から人間健康開発学と国際島嶼保健学の2つの研究領域から構成されたカリキュラムになっており、幅広い視野をもつ研究者および指導者を養成することを目的としています。

保健学とは、健康を保つことに関する学問であり、単に病気をみるだけでなく、そのまわりにある環境をも視野に入れています。貧困にあえぎ障害を抱えた女性や子供達、それに関連した思春期の課題、増大する高齢者等、社会的弱者をも取り残さずに、よりよい健康づくりを行うための研究を進めています。さらにバイオテクノロジーや情報テクノロジーの革新的進歩は健康づくりにおいてイノベーションを起こしています。これら先端的研究の実施にも積極的に取り組んでいます。

これまでアジア各国の連携機関との教育・研究交流を進めるとともに、海外からの留学生受け入れに実績を残してきました。このような環境で成果を残し、卒業後沖縄でいろいろな現場で指導的役割を担う人材、海外の国際保健の現場で活躍する修了生を輩出してきています。今後さらに、この環境を発展させ開かれた自由な学び・研究の機会の創出を目指しています。



外国人留学生特別プログラム

(博士前期課程) (博士後期課程)

東南アジア・太平洋諸国の公衆衛生・保健医療に寄与できる人材の育成

南に開かれた琉球大学の一つの研究科として、保健学研究科では2015年度より、東南アジア・太平洋諸国を中心とした留学生を対象に、特別プログラムを提供しています。学年暦の開始を10月、修了を9月に設定し、授業は英語で行っています。本プログラムでは東南アジア・太平洋諸国の公衆衛生や、保健医療に関する問題とその解決策の提言について研究を行い、自国の公衆衛生の改善に寄与できる人材の育成を目的としています。卒業生はすでに自国の各省庁や大学でポストを獲得し活躍し始めています。琉球大学と国際協力機構(JICA)沖縄センターとの協力の一環として、2020年からはJICAの奨学金制度を活用した留学生の受け入れも開始しました。

またコースでは、日本人学生も留学生とともに学び、グローバルに活躍する人材の育成のための環境を作っています。海外をフィールドとした国際保健に関する研究を行うだけでなく、JICA沖縄センターと協力のもと海外からの研修生を対象としたグローバルヘルスの実践的研修への参加機会も設けられています。

プログラムで社会に貢献する

理工学研究科 (博士前期課程) (博士後期課程)

研究科長 和田 知久

伝統的な理学および工学の学問分野に加え、新しい学際複合領域の大学院教育

理工学研究科には、工学系分野と理学系分野の博士課程があり、前期課程は、工学系が4専攻(機械システム工学、環境建設工学、電気電子工学、情報工学)、理学系が3専攻(数理科学、物質地球科学、海洋自然科学)、後期課程は、生産エネルギー工学、総合知能工学、海洋環境学の3専攻で構成されています。日本最南端に位置する理工系大学院として、独自のスタンスで沖縄の地域特性を活かしたユニークな教育研究を展開しており、伝統的な理学および工学の学問分野に加えて、「亜熱帯」、「島嶼」、「海洋」の三つのキーワードに関わる新しい学際複合領域の大学院教育にも取り組んでいます。理学および工学に加えて「学術」の学位も提供しています。



理学系



工学系

外国人留学生特別プログラム

(博士前期/後期課程) (博士前後期一貫課程)

アジア・太平洋島嶼国等からの留学生を対象にした研究者の育成プログラム

理工学研究科では、英語で学位を取得できる特別プログラムを提供しており、主にアジア・太平洋島嶼国・中東・アフリカ各国などから多くの留学生が参加しています。学年暦の開始を10月と4月、修了を9月と3月に設定し、募集、選抜、授業、実習・論文作成指導のすべてを英語で行っています。「スマートシティ人材養成プログラム」では、スマートシティ開発に関する高度な専門知識を有した人材を養成する世界的規模の教育研究拠点を築くことを目的とし、「統合型海洋科学国際展開プログラム」では、熱帯海洋の生物多様性・環境の保全、海洋関連資源の持続的利用、自然災害の防災に関する高度化統合教育を行い、熱帯海洋諸国が直面する重要課題の解決に、広い視野を持って寄与できる人材育成を目的としています。また「サンゴ礁生物科学人材養成プログラム」には日本人学生も参加し、国際人的ネットワークの構築を目的としています。

農学研究科

(修士課程)

研究科長 和田 浩二

亜熱帯農学の幅広い分野を網羅した教育プログラムで、社会に貢献する人材を育成

農学研究科は、グローバルに変容する社会に対応でき、かつ広く社会に貢献する人材を育成します。環境に調和した生物資源の安定的生産や持続的利用に独創的に取り組むとともに、亜熱帯農学の幅広い分野を網羅した体系的な教育プログラムを編成し、農学に関する総合的な知識と沖縄県を含む亜熱帯地域の農業に関する課題に対応できる人材を育成しています。

カリキュラムは基本教育科目、専門科目と展開応用科目から構成されています。熱帯・亜熱帯の農業の発展に寄与できる高度な専門知識や技術の修得、食・農・環境・資源の課題に関する教育および研究を行う実体験型プログラムの他、幅広く深い学習ができる教育プログラムを提供しています。



法務研究科

(専門職学位課程)

研究科長 清水 一成

社会の多様化に対応できる人権感覚と国際的視野を持った法曹を養成

法務研究科では、沖縄という地域がもつ国際的・地域的特性を認識し、国際的視野をもちながら、地域の法的ニーズに応え、ローカルとグローバルな視点を兼ね備えつつ、性の多様性を尊重するグローバルな法曹の養成に努めています。地域の問題に取り組むため、沖縄企業法務などを開講し、米軍基地法、日米関係など特色ある科目も設置しています。またインターナショナル・ロイヤーを目指せるよう、アメリカ法、法律基礎英語、アメリカ憲法などを用意し、さらに、LGBTQを含む性の多様性を尊重する法曹の養成を目指した科目も設置しています。学生生活のサポートのために、指導教員、就学支援委員制度を導入し、沖縄弁護士会との協力体制も充実しています。加えて、2019年度より有職者を対象とした夜間コースを設置し、長期履修と組み合わせることで夜間・土日に開講される講義の受講により修了できるようになりました。



鹿児島大学大学院連合農学研究科 (博士課程後期)

環境と調和し、安定的な食糧生産と技術革新を担う指導者を育成

鹿児島大学大学院連合農学研究科は、日本の食糧生産基地である九州・沖縄において、農林水産業のさらなる発展を目指し、環境と調和した安定的食糧生産および技術革新を担う指導者育成を目的としています。琉球大学、佐賀大学、鹿児島大学が連合し教育研究体制を整えた博士課程大学院です。温帯から熱帯の資源の生産・利用を中心に、地域・国際農水産学、環境農水産学および先端生命科学に関する高度な専門的能力と豊かな学識を備えた研究者を育成し、農水産学の進歩および地域の発展に寄与することを目的としています。また、東アジアにおける農水産学の教育研究の中核となることを目標に、社会人ならびに海外の留学希望者を積極的に受入れています。



グローバル教育支援機構

機構長 井上 章二

グローバル教育支援機構は、本学の教育の目的と理念に沿って、教育水準の向上とグローバル化を図るとともに、学生を入学から進路決定まで一貫して支援し、社会に求められる人材を育成することを目的として、学内共同教育研究施設を統合し、平成27年に設置されました。

当機構のもとに、アドミッション部門(アドミッションセンター)、大学教育支援部門(大学教育センター)、国際教育支援部門(国際教育センター)、キャリア教育支援部門(キャリア教育センター)、保健管理部門(保健管理センター)の5つの部門が置かれ、各部門が連携しながら、より効果的な教育・学生支援を行うとともに、学生の国際交流のさらなる推進などに取り組んでいます。



■短期交換留学プログラム修了式(国際教育センター)



■健康相談・カウンセリング(保健管理センター)



■県外オープンキャンパスin名古屋を開催(アドミッションセンター)



■合同企業説明会(学内開催)(キャリア教育センター)

研究推進機構

機構長 木暮 一啓

研究推進機構の役割

研究推進機構は、基盤的研究ならびに沖縄の地域特性を反映した特色ある研究の一層の強化を図ることを目的として、平成27年に設置されました。既存の全学研究所・研究推進組織や博物館(風樹館)、研究基盤センターなどに加え、部局の枠を超えた研究プロジェクトの受皿となる戦略的研究プロジェクトセンター、ならびに研究企画室から構成されています。

戦略的研究プロジェクトセンターは、特色ある研究プロジェクトの中核となる研究者が研究に専念できるように支援し、本学の研究水準の向上に貢献することを目的とした組織です。従来の研究テーマを深化させるとともに、学問分野や所属部局の枠を超えた、新たな研究領域の開拓、そして企業との共同研究の推進にも取り組んでいます。



研究マネジメント高度専門職URA

研究企画室は、研究マネジメントを行う高度専門職員であるリサーチ・アドミニストレーター(URA)が所属する研究推進のための組織です。本室では、研究活動に関する調査・分析、研究倫理向上に資する支援、科研費などの競争的資金の獲得支援、研究プロジェクトの企画・活性化、研究成果の発信、国際的な研究拠点構築支援など多様な人材を活かす環境整備支援の活動を行っています。

共用機器システムの地域展開

研究機器の全学的な共用システムを研究基盤センターや戦略的研究プロジェクトセンターを中心に運営しています。Web予約や課金システム、入退出管理システムなどにより、すべての教職員が利用しやすい機器共用の環境整備を行っています。これらのシステムは、令和元年に設立した「おきなわオープンファシリティーネットワーク」を通じて、沖縄県内の研究機関と連携して運用しています。

地域連携推進機構

機構長 牛窪 潔

地域連携推進機構は、本学が地域貢献大学として、持続可能な社会の実現に寄与していくことを目指し、自らが保有する教育研究の強みや特色を活かして、教育機関、地方公共団体、産業界及び金融機関等と連携を推進することによって、地域の振興や発展を担う人材を育成することを目的としています。また、学内の各学部・研究科や、大学の機能強化のための全学的組織である研究推進機構、グローバル教育支援機構との協働、そして学外の各種機関（産業界や行政機関、高等教育機関等）との積極的な連携など、国立大学改革における重点支援の3つの枠組みの中で「地域貢献型大学」を選択した本学において、「行動するシンクタンク」としての重要な役割を担っています。



■沖縄産学官協働人材育成円卓会議



■社会人と学生が共に学ぶ「地域企業（自治体）お題解決プログラム」での最終発表会



■琉球大学未来共創フェア2019



■「地域共創型学生プロジェクト（ちゅらプロ）」で学生が主催した市民ワークショップ

ダイバーシティ推進本部

本部長 井上 章二

ダイバーシティ推進本部は、人種・性別・国籍・障がいの有無及び年齢等に関わらず、多様な属性を持った人材が本学の人的資源として活躍できるような支援を行う組織として、平成27年4月に設置されました。多様性のある大学づくりを積極的に推進するため、平成27年3月にダイバーシティ推進宣言とともに、ダイバーシティ推進のための5つの基本方針を採択しました。

また、ダイバーシティ推進本部において、ジェンダー協働推進室を運営主体に、さらなる男女共同参画の推進を図り、積極的な取組みを実施しています。



大学評価IRマネジメントセンター

センター長 越野 泰成

大学評価IRマネジメントセンターは、教育研究等の改善及び改革に資する活動を推進することを目的として、既存の大学運営推進組織である大学評価センターとIR推進室を統合し、平成29年4月1日付けで設置されました。主な活動は、本学の自己点検・評価に関し、IR (Institutional Research) 機能を有効に活用したPDCA (Plan・Do・Check・Action) サイクルによる企画及び調査研究の実施、自己点検・評価の充実及び内部質保証システムの構築、国立大学法人評価委員会が行う業務の実績に関する評価及び認証評価機関が行う教育研究活動等の第三者評価への対応です。IR機能を活用した質保証に関する活動はもとより、戦略的な学内資源の再配分や、重点施策に関する支援の強化にも努めています。



ハラスメント相談支援センター

センター長 矢野 恵美

琉球大学ハラスメント相談支援センターは、国内の大学機関では珍しい、ハラスメント問題に特化した独立の相談機関です。法律と心理学を専門とする教員（センター長1名、副センター長2名）の他、専門の相談員（臨床心理士・公認心理師）が3名常駐しています。大学固有の問題も多いため、各部署の教職員もハラスメント学内相談員を担当しています。

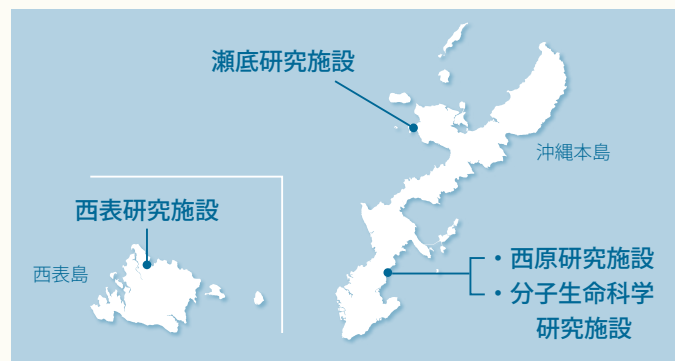


研究を支える充実した附属研究施設

熱帯生物圏研究センター

センター長 松崎 吾朗

熱帯生物圏研究センターは、瀬底研究施設、西表研究施設、分子生命科学研究施設、西原研究施設から成り、熱帯・亜熱帯における生物の多様性やその背景にある様々な生命現象に関する研究を行っています。主にサンゴ礁生態系の形成や機能の解明に関する研究、亜熱帯島嶼環境下における生物多様性の現状や形成過程に関する研究、有用生物資源の探索および有効活用、効率的な生物生産に関する研究などを行い、さらに、感染症研究や感染症ワクチン開発も推進しています。また、当センターは、文部科学省からの認定を受けた共同利用・共同研究拠点としての機能も果たしています。



■熱帯生物圏研究センター、各研究施設の配置。沖縄県内各地にまたがる



■瀬底研究施設



■サンゴ潜水作業



■西表研究施設



■サンゴ礁は研究課題の宝庫



■西表島のマングローブ林の面積は日本最大



■分子生命科学研究施設



■西原研究施設 (理系複合棟 7階)

島嶼地域科学研究所

所長 藤田 陽子

島嶼地域科学研究所は、沖縄をはじめとする国内外の島嶼地域を研究対象とし、島嶼としての特性に起因する地域課題について、人文・社会科学分野を軸とした多分野融合型研究を展開しています。多くの小島嶼からなる沖縄は、国際性・多様性・独自性といった島嶼の特性の宝庫です。研究対象や比較対象に恵まれた、島嶼地域科学のフィールドとしての優位性を活かして、島々の文化やコミュニティの多様性、海を介した島外との関係性、島嶼に適した社会・経済システムに関する研究等を軸に多彩な研究に取り組んでいます。また、複数の研究プロジェクト等を通して国内外の研究者や研究機関との共同利用・共同研究を推進するとともに、学術情報データベース等の構築を附属図書館との協働により進めています。研究成果は出版物や公開シンポジウムなどを通して社会に公開・還元しています。



島嶼防災研究センター

センター長 カストロ ホワン ホセ
CASTRO Juan Jose

島嶼防災研究センターは、地震、津波、地盤災害(斜面崩壊、土石流、堰止め湖、シンクホールなど)、台風、洪水等の自然災害を研究対象とし、奄美大島から与那国島まで多くの島々で構成される長さ1300kmに及ぶ広大な南西諸島地域の総合的な防災研究機関です。当センターはレンタルラボ形式で、地震・地盤問題を対象とする「地殻工学防災研究所」、災害を受けた構造物を早急に評価するシステムを開発している「NPO法人グリーンアース」、災害時のコミュニケーションに特化した研究の「一般社団法人全国自治会活動支援ネット沖縄支部」など研究室が入居し、本学教員が共同で防災に関わる研究活動を行えるシステムを導入しています。また、自然災害に関して平成30年より学生と社会の防災教育を目的として自然災害再現施設を導入し、一般公開しています。



附属図書館

館長 藤田 陽子

多様な学修スペースの整備や大学院生による相談窓口の設置 充実した沖縄資料に県内外の研究者も注目

附属図書館は本館と医学部分館があり、あわせて約100万冊の図書・雑誌が利用できます。資料の閲覧・貸出のほか、本館には学生のアクティブな学びをサポートするラーニング・コモンズや、グローバル教育に関する活動の場であるグローバル・コモンズ津梁など多様な学修スペースがあります。また、レポートの書き方や英語・留学に関して大学院生からアドバイスを受けられる相談窓口も設けています。

さらに、沖縄関係の資料が充実しているのが特徴で、学生・教職員だけでなく、県内外の多くの研究者にも利用されています。



■本館 2 階ラーニング・コモンズ

360°



■琉球人行列図綿絵

琉球大学病院

病院長 大屋 祐輔

高度医療や先進的医療を担い国際性豊かな医療人を育成する

琉球大学病院は、「病める人の立場に立った、質の高い医療を提供するとともに、地域・社会に貢献する優れた医療人を育成する」を理念として掲げています。

生命の尊厳を重んじた温かい医療の実践や、地域における保健・医療・福祉の向上、地域医療への貢献をおこないつつ、病院の使命として、先端医療技術の開発、応用、および評価を指針としています。また、沖縄県内唯一の特定機能病院であることから、高度医療や先進的医療を担い、日々その使命と役割を果たしています。

琉球大学病院は、平成19年にはエイズ診療拠点病院に、平成20年には、都道府県がん診療連携拠点病院として指定を受けました。続く平成21年には沖縄県肝疾患診療連携拠点病院に、また平成23年にはへき地医療拠点病院として指定を受けています。沖縄県における高度医療および地域医療を担う医療機関として機能するとともに、感染症などの分野で、東南アジア地域における医療への貢献も期待されています。また、おきなわクリニカルシミュレーションセンターを活用した医学教育、再生医療研究センターを活用した脂肪幹細胞を用いた再生医療、およびロボットを用いた手術・リハビリなどの先進医療、などにも取り組んでいます。



■おきなわクリニカルシミュレーションセンター



■再生医療研究センター
(2015年6月開設)

学内共同教育研究施設

研究基盤センター

センター長 平井 到

研究基盤センターは機器分析施設、環境安全施設、RI施設、化学物質管理室、極低温施設の5部門からなり、各種共同利用機器の維持管理や実験廃液処理、排水検査、RI(放射性同位元素)管理、化学物質・高圧ガス管理支援、液体窒素・液体ヘリウムの供給、各種セミナーの企画開催など幅広い分野で全学の教育研究支援を行っています。また、学外向けサービスも行っています。



■極低温施設

総合情報処理センター

センター長 古川 雅英

総合情報処理センターは、学内コンピュータネットワーク設備を管理運営し、学内の情報処理教育環境と研究環境の充実を図り、ICT活用のための教育基盤を提供しています。また、広帯域ネットワークおよび無線LANの管理、e-ラーニング等主要なインターネットアプリケーションとネットワークサービスに取り組み、さまざまな情報サービスを提供するとともに、学内の学生と教職員にICT活用のための技術的支援を行っています。また、情報セキュリティ確保のため、2015年4月13日にISMS認証取得を果たしています。さらに、情報処理に関する研究ならびに次世代学内コンピュータネットワーク構築のための研究開発を行っています。



博物館(風樹館)

館長 立田 晴記

17万点あまりの貴重な資料を収蔵 データベース公開で、標本情報の発信も行

琉球大学博物館(風樹館)は、学内の研究者が教育や研究活動の一環として、主に琉球列島で収集した約17万点の標本や資料を収蔵しています。一階にある常設展示室では、イリオモテヤマネコやヤンバルクイナなどの希少生物の標本をはじめ、首里城関連の考古資料、伝統工芸資料、農具などの民俗資料を展示しています。また、さまざまな動植物が観察できる自然学習の場として「学校ビオトープ見本園」を併設しています。2015年には、全国学校・園庭ビオトープコンクール(主催・日本生態系協会)で日本生態系協会会長賞を受賞し、特に地域とのパートナーシップの観点で優れていると評価を受けました。琉球大学では「地域へ開かれた大学」という方針のもとに、大学が生産するさまざまな学術情報を学外へも広く提供しています。当館では、広く学外の方々にも収蔵資料を活用していただけるよう、ホームページ上に標本データベースを開設し、標本情報等の発信を行っています。また、地域への貢献活動として、小学校などへの出前授業や教職員の研修会なども実施しています。



360°



■自然系展示室



■人文系展示室



■学校ビオトープ見本園(屋外展示場)

教職センター

センター長 上地 完治

教職センターは、2017年7月に、教育学部附属の教育実践総合センター及び発達支援教育実践センター並びに教員免許状更新講習実施室を発展的に統合して設置されました。

「教員免許状の取得」といえば一般的には教育学部が頭に浮かぶと思いますが、琉球大学では教育学部を含むすべての学部において中学校または高等学校の教員免許状が取れるようになっています(小学校の教員免許状は教育学部のみ)。教職センターは、こうした琉球大学における教員養成教育が教育実践力の高い学校教員の育成に資する質の高い教育課程となるように、総合的な見地から教職課程や教育実習などの企画・調整・整備等に取り組んでいます。

また、琉球大学は教員免許状更新講習として必修領域・選択必修領域・選択領域をあわせて150～180講習を例年提供しています。教職センターは地域の教育機関(学校・教育委員会)と連携協力して、ともに沖縄県の教育の向上にも努めています。



附属学校

教育学部附属小学校

校長 島袋 優

教育目標に「一人一人が夢をもち、未来を生きる力のある子」を掲げています。

21世紀は個性を大事にする時代であることをもとに、一人一人が将来の目標となる大きな夢をもち、自らの未来を自分の力で生きることができると育成を目指しています。また、基本的な教育理念のもとに、知・徳・体のバランスのとれた子どもの育成をおこなっています。

総定員630人全20クラス



教育学部附属中学校

校長 比嘉 智也

「よく考え、豊かに感じ、自発的に行動する生徒の人間性を形成する」を教育目標とし、生徒に生きる力をはぐくむことを目指しています。学部教員と共同研究を行いながら、創意ある教育活動を展開し、物事をよく考え、自ら進んで課題解決に粘り強く取り組む生徒の育成に努めています。また、教員養成として教育実習生を受け入れ、学生に対し教育実践者としての資質を磨かせるほか、地域貢献として研究・実践の成果を広く公開することで、公立学校等との連携を図っています。

総定員480人全12クラス



学部附属教育研究施設

【医学部】実験実習機器センター センター長 筒井 正人

実験実習機器センターは、医学部の共同利用研究施設として、大型実験機器の管理・運用および研究者への技術支援を行なっています。

動物実験施設

施設長 高山 千利

医学部及び関連領域の教育・研究に資するため、実験用動物の飼育管理、動物実験、代替実験及び実験用動物に関する教育、開発、研究等を行っています。



【工学部】工作工場

工場長 野底 武浩

工作工場は、道具やマシンなどを対象とするモノづくり教育の拠点であり、工夫やアイデアを実際の形にするための工作機械が整備されています。そのようなモノづくりには、加工技術の正確さ、安全性、効率性が必要であり、熟練した技術職員が学生たちに講義と実習により指導しています。また、マシニングセンターやCNC工作機械も設置し、それらを制御するプログラミング教育も行っています。さらには、卒業研究および大学院修士・博士課程における高度な研究に必要なオンリーワンの機器や装置の製作を通して高度教育研究を支援しています。



【農学部】亜熱帯フィールド科学教育研究センター

センター長 内藤 重之

亜熱帯フィールド科学教育研究センターは、農学部隣接する千原フィールド(農場、上原研究園)と沖縄島北部に所在する与那フィールド(演習林、里山研究園)の2つのフィールドを有しています。

千原フィールドにおいては作物栽培、施設園芸、畜産などに関して、与那フィールドでは森林などに関して、農学の基礎から応用まで幅広く実践的な教育研究を担っています。



■豚の飼育管理実習

URGCC

すべての教育活動が「URGCC」に結びつき
学生を地域と世界の懸け橋となる
グローバルシティズンへ育む

URGCCとは、琉球大学が「学士課程教育の質の保証」を目的として、2012年度より全学的に新しく導入したカリキュラム及び実施体制の総称です。

他の国立大学とは異なった歴史を持つ本学では、沖縄をはじめ県外の学生、アジアを中心とした外国より留学生が集うなど多様な人材が集まる場所となっています。世界へ拓かれ、沖縄と世界の「津梁(架け橋)」となる21世紀型市民の養成を目指し、専門性を有し、幅広い教養を身に付け、新しい時代において自ら問題を見出し、多様な人々と協調・協働しながら地域社会や国際社会を積極的に支え、改善していく人材の育成を全学が共通に取り組みます。そのためURGCCの7つの学習教育目標を定め、この目標等に沿って、全学の各学士教育プログラムが、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針及び入学受入の方針(3つのポリシー)を定めています。

各学部・学科等は、授与する学士の専攻分野を踏まえた学士教育プログラムを構成し、URGCC及び各プログラムの学習教育目標に基づき、体系的なカリキュラムを提供します。21世紀型市民として地域及び国際社会において自ら問題を見出し、多様な人々と協調・協働しながら解決方法を探求する学習能力を養うために、学生が主体となる実践性のある教育を行います。また、学士教育プログラムでは、学習成果を総合的に評価し、教育の質保証の継続的改善に取り組みます。



URGCC-Advanced

学士課程教育のURGCCの理念を
引き継ぐ大学院教育

大学院課程教育においても各専攻で3つのポリシーを策定し、また、学修課題を複数の科目等を通じて体系的に履修するコースワークから高度な専門性を修得するリサーチワークへと有機的に繋がりをもった体系的な教育を実施しています。大学院教育の改善を進め、大学院教育の質保証体制を確立するためにも、体系的な大学院教育の推進及び組織的な教育の評価・改善体制の構築が重要で、大学全体として一貫した理念を持ち、学士課程教育のURGCCの理念を引き継ぐ大学院教育が求められます。

すなわち、大学院課程教育においても、博士課程前期(修士課程)、博士課程後期(博士課程)及び専門職学位課程の各専攻を修了した学生が普遍的に獲得することが期待されている知識・技能・態度を概念的に表し(URGCC-Advanced学習教育目標)、琉球大学の学部入学から大学院修了までの一貫した教育を進めるため、2018年度にURGCC-Advancedを導入し、全学的な組織での教育改善活動を推進し、教育の質保証システムを確立しました。



沖縄の特色ある研究を推進

首里城再興に向けた学術ネットワーク

琉球大学では、令和元年10月31日未明に焼失した首里城の再興に向けた学術プロジェクトを立ち上げました。

本学と首里城には縁があります。本学は、戦災に遭った首里城の跡地に、米国統治下時代の1950年に創設されました。その後、琉球大学が現在の西原町に移転したことにより、1992年に首里城正殿が復元されました。

本学では今回の火災を受けて、令和元年12月に「首里城再興緊急学術シンポジウム—学術にできることは何か」を開催しました。続いて、ホームページの立ち上げ、現場視察および関係者との意見交換を進めてきました。

この過程で、新しい知見の活用、貴重な資料の保管方法、首里城再興過程の継続的な発信、防災、まちづくりなど、様々な

学術的課題が浮かび上がりました。本学では、文系・理系問わずに様々な教職員によって、これらの課題に取り組みます。

本学は、国や沖縄県、那覇市、そして多くのみなさまと共に、琉球王国の歴史を多面的に捉えつつ、若い世代に繋げていく教育も含めた長期的な活動を進めていくことを計画しています。



首里城正殿
写真：河野哲舟氏



特色分野のひとつ「海洋」

高度統合型熱帯科学技術イノベーション

琉球大学の強みの一つである海洋科学の実績を活かし、東南アジア・太平洋諸国との国際的な連携を展開することによって、海洋科学研究に関する国際的な拠点化構想を推進するプロジェクト「高度統合型熱帯科学技術イノベーション創出研究拠点形成事業 (ORCHIDS: Okinawa Research Core for Highly Innovative Discipline Science)」を進めています。

このプロジェクトは、4つの研究分野(サンゴ礁生物、海底熱水鉱床、海洋生物増養殖、海洋域自然災害)からなります。また、本学教職員を海外研修や調査等のために国内外に派遣したり、国内外から研究者を招へいしたりすることで、国内外の海洋科学研究者(研究機関)とのグローバルネットワークの構築を進めています。



海ごみ削減を目指した分野横断「プロジェクト・イッカク」

“これ以上海にごみを出さない”という社会全体の意識を高めるため、日本財団等が開始した「プロジェクト・イッカク」に本学教員が参画しています。「衛星・ドローンによるごみ漂着状況診断システムの構築」と「自律分散ごみ処理システムの開発」のテーマに産学官連携の超異分野チームで取り組んでいます。

水中考古研究「鷹島海底遺跡」

本学では理学的な海洋研究とともに、海底に埋蔵された遺跡などを対象とした水中考古学の研究も進めています。本学と長崎県松浦市の共同研究チームが鷹島沖で発掘した元寇船は、大きな注目を集めました。本学は松浦市と協定を結び、2017年に同市に設立された水中考古学研究センターの運営にも協力しています。

亜熱帯島嶼の時空間ゲノミクス

本プロジェクトでは、物理環境、微生物、動物、ヒトの相互作用を時間(歴史・進化)と空間(分布)の観点から検証して、現代の疾患構造を理解し、医療に活かすことを目的としています。さらにこれらを広く展開して、学際的研究領域を創出するとともに、既存の枠組みを取り払った、異分野融合型研究拠点の形成を目指しています。



ゲノミクス解析支援チーム

本プロジェクトの特色として、ゲノミクス研究を進展させるため、学部の壁を越えたゲノミクス解析支援チームを立ち上げました。本チームは学部を横断した教職員で構成され、全般的な支援や技術・解析指導等を行っています。これにより各種研究活動が活性化されると共に、分野を超えた研究者間の交流も推進されています。

レプトスピラ症予防に向けた環境DNA分析手法

本プロジェクトでは、水中に存在する「環境DNA」を分析する手法で、人獣共通感染症を起こす細菌レプトスピラのDNAを川の水から直接検出することに成功しました。沖縄県だけでなく、様々な国や地域に応用でき、予防方針を得ることに役立つと考えられます。

異分野融合研究「言語系統樹」

奄美・沖縄の言語的多様性を体系的に理解するために、生物学の系統樹を応用した「言語系統樹」による分析システムの開発をしています。文系の言語学と理系の生物系統学の融合により、言語学的なバリエーションを視覚化することで、なぜ差異が生まれるのか、いつの時代に分岐したのかななどを明らかにします。

地域とともに、豊かな未来社会 ～ 地域のための「アクティブ・シンクタンク」

琉球大学は地域とともに豊かな未来社会をデザインするため、地域連携推進機構を中心に学内外と連携し、地域に貢献する様々な取組を進めています。ここでは、これまで地域連携推進機構が実施してきた産業界や企業、行政及び地域と連携した取組として、商品開発、人材育成、地方創生及び地域の活性化を推進する取組を紹介します。2020年4月からは、研究者支援体制の再編を進めるため、地域連携推進機構の産学官連携推進部門を研究推進機構へ移管し、引き続き研究推進機構と連携しながら、地域のためのシンクタンク機能の強化を目指します。詳しくは、琉球大学地域連携推進機構のホームページをご覧ください。



1. 東西南北をつなぐ 琉球大学サテライトキャンパス

琉球大学では、県内の島嶼部を含む5地域に琉球大学サテライトキャンパスを設置しています(令和2年4月現在)。このキャンパスでは、「サテライト教育システム」を活用した双方向(多方向)型の教育や対面式の出前講座、シンポジウムやフォーラム、ワークショップ等、多様な学習形態による学びの機会を提供しています。



これまでの主な活動実績

【公開講座】

市民ランナーのためのランニング科学講座／沖縄近現代史始め／気になるこどもの理解・子育て・支援／新人養護教諭のための実務サポート講習／心理リハビリテーション・ボランティア養成講座／電子工作教室等



【公開授業】

海洋の科学／天体観測を通して学ぶ宇宙／琉球語学入門等

【その他】

琉球大学オープンキャンパスの配信／シンポジウムの開催／市民講座等の開催等



■サテライトキャンパスへの配信講座

2. 地域とともに 新たなイノベーションを創出

①琉球大学ブランド商品開発支援事業(平成28年度から実施)

本学の有する研究シーズ、事業アイデア、ノウハウ、ビジネスモデル、デザイン等の知的資産を活用した「琉球大学ブランド商品」の開発を支援しており、これまで10個の商品を開発しました。



▲琉球大学カレー



▲琉球大学の泡盛



▲Sun Laver
(サンラバー) (化粧水)



▲琉大精油



▲琉大ハニーグラノーラ



▲ノリを配合した商品
(左からそば、胡椒、クッキー)

②産学官金共同研究スタートアップ支援事業

(平成28年度から実施、県内金融機関との共同事業)

本学の研究シーズと地域・企業のニーズをマッチングし、産学官の連携を支援することにより、地域振興・地域産業の活性化に寄与する事業です。毎年12件程度を支援しており、令和元年度までの支援件数は49件となっています。また、支援の成果を踏まえてさらにステップアップし、他の支援事業獲得や企業との共同研究につながっています。

③琉球大学未来共創フェア(平成30年度から実施)

「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」という本学のビジョンの達成に向け、大学が取り組む教育・研究・医療・診療等の成果を広く地域社会に開示し、大学と地域社会や市民との対話の機会となるよう、参加体験型の展示会を開催しています。

本フェアは令和2年の本学開学70周年関連事業にも位置付けられており、今後も継続的に開催する予定です。



■「琉球大学未来共創フェア2019」の様子

④15の春の解消に向けた、沖縄本島と結んだ高校教育の実証実験 (平成29年度から実施、与那国町からの受託事業)

沖縄には、高校が設置されていない離島が多く存在し、15歳の中学校卒業と同時に、島を離れることとなります。琉球大学ではICTを活用した遠隔授業による教育効果と高校のない離島における高校設立の可能性について検証を行っています。

3. 多様な人材を育成するための プログラムの開発

①イノベーション創出人材育成事業(平成30年度から実施)

沖縄県内の経済成長、産業高度化・高付加価値化、社会課題の解決等を促進するため、起業マインド(アントレプレナーシップ)を有する人材を継続的に育成・輩出する仕組みを構築するとともに、これらの人材による新たなベンチャービジネスなど、イノベーションの創出を促進していきます。

をデザインする大学へ として～

②目的別プログラムの開発(平成28年度から実施)

「沖縄産学官協働人材育成円卓会議」と連携し、「地域・政策人材育成分野」、「高度専門職育成分野」、「地域の子どもを支援するインクルーシブ教育推進人材の育成分野」の3分野において、地域づくりを担う人材育成や自治体職員の政策立案能力強化など、これまで19の多様な人材育成プログラムを開発し、社会人及び学生に提供しています。

また、開発した科目の一部は一般社団法人地域公共人材開発機構の資格制度「初級地域公共政策士」の科目認証制度に認定され、令和2年3月に13人(社会人9人、本学学生4人)の初級地域公共政策士を沖縄で初めて輩出しました。プログラムに関わった各機関の関係者と資格取得者は、「沖縄地域公共政策研究会」を設立し、地域公共政策士の人材ネットワークの構築を目指しています。



■令和元年度初級地域公共政策士修了式の様子

4. 地域と共に取り組む地域創生

琉球大学では、平成25年度から平成29年度まで文部科学省補助事業のCOC「ちゅら島の未来を創る知の津梁(かけ橋)」、平成27年度から令和元年度までCOC+事業「新たな地域社会を創造する『未来叶い(ミライ カナイ)』プロジェクト」に取組みました。COC事業及びCOC+事業の補助期間終了後も後継の事業を継続しており、地域の地(知)の拠点として、地方創生を推進しています。沖縄県や県内市町村との連携協定を締結し、地方創生を担う人材の育成に取り組んでいます。



①離島固有の地域課題克服に向けた学生の取組～「知のふるさと納税」事業

県内の高等教育機関が本島に集中する中、大学や大学生の不在による知の偏在状況とそれに伴う学習・進学意識の希薄化といった離島固有の課題の克服に向けて、平成21年度から八重山、久米島、宮古の各離島地域において、本学の離島出身学生を中心とする学生集団による交流事業を行っています。

中学校や高校を訪問して大学生によるミニ講義や進路相談交流会、中高生の保護者との懇談会を実施したり、青少年の家や公民館での中高生との合宿等の交流プログラムを行っています。(2018年、2019年、2020年に「オーキッドバウンティ基金」に選定いただき、本事業に対するご支援をいただいております。)



■講義：八重山と津波



■大学生生活紹介

②地域を学ぶ科目群を開講

大学が地域の地(知)の拠点となるためには、学生が地域の魅力や課題を知することは非常に重要です。そのため琉球大学では、共通教育に「琉大特色・地域創生科目」を設定し、地域を学ぶための科目群を開講しています。

③地域の企業が求める人材を養成

地元自治体や地域企業が求める地域人材のニーズに応えるため、企業と連携した寄附講義を開講しており、地域に関心を持つ多くの学生が受講しています。

④地域をフィールドとした実践教育の実施

通常の授業の他にも、夏季休業を利用した合宿形式の実習を離島において実施し、沖縄のもつ島嶼地域の独自性や多様性について学ぶ機会としています。

⑤「地域創生副専攻」の開設

地域についてもっと学びたいという意欲のある学生には「地域創生副専攻」の履修制度もあります。体系的な学修の機会が提供され、卒業時には副専攻の修了証が授与されます。

このように、本学では、地域との連携により、卒業後に地方創生を担う人材の育成に取り組んでいます。



■寄附講義での那覇空港訓練施設視察



■Facebookへの広告を考える実習



■斎場御嶽での実習の様子



■離島での実習に向けた事前遠隔学習



■離島での実習の様子

異文化への理解を深め、国際的



本学は、「国際性豊かな特色ある大学」をめざし、国際的に開かれた大学として各国から多くの留学生を受け入れ、交流協定を締結した大学等へ本学の学生を派遣しています。

また、本学の国際化だけでなく、地域の国際化に貢献するため、地域住民と外国人留学生との交流事業を実施し、地域社会における国際理解の促進に取り組んでいます。



グローバル教育支援機構国際教育センターでは、主に学生の外国語学修を支援する外国語ユニットと、主に外国人留学生の本学での学生生活を支援する留学生ユニットの2つのユニットが連携し、学生をグローバル人材として育成するための企画・立案及び教育・指導助言を行うとともに、外国の大学に留学を希望する学生の派遣及び外国人留学生の受入れに係る支援を行っています。



■国際教育センター

短期研修を含む海外留学プログラムの推進

グローバルな視野の涵養のため、本学では外国の大学で専門分野の教育や研究指導を受けることができる短期交換留学(派遣)制度による海外留学プログラム以外にも、外国語能力の向上や異文化理解の深化を図ることを目的とした2週間から1か月間の海外協定大学等での短期研修プログラム等を実施しています。

また、沖縄産学官協働人材育成円卓会議が実施する～トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム 地域人材コース～「沖縄からアジアへトビタテ!留学JAPANプロジェクト」を活用して海外で活動する学生に対して、派遣前オリエンテーションや報告会を開催し、その経験がより有意義なものとなるよう支援を行っています。



■トビタテ!留学JAPANプロジェクト報告会

外国人留学生に対する学修や生活支援の充実



■日本語授業の様子

本学では、外国人留学生が留学生生活を安心して過ごせるよう様々な支援を行っています。

国際教育センターは、本学で学ぶ外国人留学生を対象に、初級から上級まで様々なレベルの日本語科目や、日本と沖縄の文化や社会のことを学ぶ日本事情科目を開講しています。また、日本で就職を希望する外国人留学生に対しては、ビジネス日本語が習得できる科目の提供と、専門のカウンセラーによる個別キャリアカウンセリングによる支援を実施しています。

そのほか、日本人学生や先輩である外国人留学生が、チューター学生として外国人留学生の日本語学習や日常生活を個別にサポートする制度や、外国人留学生の異文化環境への適応に対する支援として、異文化カウンセラーによるカウンセリングを行っています。

視野を身に付ける

国・地域別留学生数 (2020年5月1日現在)



琉球大学では、「国際交流の推進」を基本理念の一つとして、海外の大学等との教育・研究交流を推進しています。現在42か国・地域の121大学(令和2年3月31日時点)と国際交流協定を締結しています。これらの協定大学のうち100大学と「学生交流協定(覚書)」を併せて締結しています。その覚書に基づく交換留学制度による学生の相互派遣は、広い視野とグローバルな思考力を育む様々な取組のなかでも基盤となる事業となっています。



地域社会における国際理解促進のための取組

本学は、地域に開かれた国際交流を積極的に推進するため、外国人留学生を地域の学校等に派遣し、地域の児童・生徒と外国人留学生が相互に自国の文化等を紹介する交流事業や、外国人留学生と日本人学生が協力して、伝統的な舞踊、民族衣装や料理といった出身国の身近な文化を紹介するイベント(グローバルフェスティバル)等を実施しています。



■地域小生との国際交流の様子

学生の国際交流を支援する本学独自の制度

本学では、より多くの優秀な学生の海外派遣と外国人留学生の受入によるグローバル化の推進を目指し、大学独自の支援制度を設けて、給付型奨学金等を支給し、学生の国際交流を支援しています。

■琉球大学岸本遺贈基金寄附金による人材育成事業

本学同窓生である岸本正之氏が米国で創設した「琉球大学岸本遺贈基金」の運用益寄附金を財源に、グローバル人材育成のため、交換留学生として派遣する日本人学生等に奨学金と留学準備金を給付します。



■琉球大学QUEST基金(※)による学生の国際交流事業

本学卒業生の篤志家からの学生の国際交流支援を目的とする寄附金を財源に、短期研修を含め年間100名の琉大生の海外留学の支援や、交換留学生として受け入れる外国人留学生の支援等を行います。

※QUEST(Quality Education and Support for Tomorrow/未来へ繋がる探求心を育む教育支援)

■公益財団法人琉球大学後援財団による国際交流奨励事業

本学及び地域社会に寄与することを目的として、海外に派遣する日本人学生及び外国人留学生に対して奨励金を給付します。



学生生活をより豊かに、より実り

キャリア教育センター

キャリア教育センターは、学生自身が卒業後の進路について考え、その目標を達成するための取り組みをバックアップします。

専任教員による人生キャリアを考える授業のほか、就活アドバイザーによる進路・就職相談、就活実践指導（エントリーシートの添削、面接練習）、職業興味検査の実施、各種ガイダンス・学内会社説明会の開催、求人情報の提供、県外就職支援事業、教員対策講座、公務員試験対策講座を行なっています。

充実した大学生活と就職活動を通して、希望する進路目標を達成するために積極的に活用してください。



学生相談室

毎日の生活の中から生じた問題や悩みについて、その解決に向けピアカウンセラーがお手伝いします。ピアカウンセラーからの助言や忠告を得るだけでなく、互いに話し合うことで自分の気持ちや考え方を言葉にして整理し、相談者が自ら問題解決の糸口を見つけていくことができます。



保健管理センター



保健管理センターは、学生および教職員の健康の保持、増進などの保健管理に関する専門業務を行う施設として1979年に設置されました。主な業務のうち、健康管理の支援として毎年4月に実施する学生定期健康診断や、学校医による健康相談を行っています。また日常の業務としては、簡単な投薬治療やケガや病気の応急処置も行います。

近年はメンタルヘルスケアの充実を図っており、カウンセラーの増員、カウンセリングルームの拡充などを行うとともに、学業や進路、心身の健康、人間関係などさまざまな悩みに関して専門のカウンセラーが対応しています。



障がい学生支援室

琉球大学では障がいのある人もない人も同じように教育・研究に専念できる大学づくりを目指しています。「障がい学生支援室」は障がいや病気のある人など、学業を修めるにあたって合理的な配慮を希望する人のための相談窓口です。講義や実習などで困難を感じたときは、まずは相談窓口を利用してください。



経済サポート

誰もが経済的な事情に左右されずに学べるようさまざまな奨学金制度を設けています。

●琉球大学修学支援基金 学資金支援事業

地域の方々や教職員からの寄附によって経済的な理由により修学が困難な学生へ、返済の必要のない奨学金を給付しています。

●日本学生支援機構奨学金

日本学生支援機構の奨学金には、第一種(無利子)、第二種(有利子)及び給付奨学金があります。

●財団等の奨学金

琉球大学後援財団、琉球大学同窓会及び民間奨学財団等の給付奨学金があります。



琉球大学後援財団 HP 琉球大学同窓会 HP

●修学支援新制度(要申請)

- ・給付奨学金(日本学生支援機構へ申請)

決定された支援区分に従って給付型の奨学金が給付されます。

- ・授業料減免等(大学へ申請)

上記給付奨学金の支援区分に合わせて、授業料が減免されます。

また、新入生については入学料減免も含まれます。

●入学料免除制度(要申請)

修学支援新制度に申請できない学生を対象とした制度です。

入学料の全額または半額が免除されます。

●授業料免除制度(要申請)

修学支援新制度に申請できない学生を対象とした制度です。

授業料の全額または半額が免除されます。



学生寮

国内外の各地から学生や留学生が集まる琉球大学には、異文化交流や人間的成長を促す学生寮(千原寮)があります。

様々な人との出会いや共同生活の中で、社会のルールが自然と身に付き、友人や先輩とのきずなが深まります。



■新棟

COVID-19に関する支援

- ・新型コロナウイルス感染症に関するお知らせ等のまとめ



- ・琉球大学における新型コロナウイルス感染症の影響を被る学生への緊急支援制度一覧



食堂

学内には中央食堂・生協中央店、北食堂の2施設があります。カフェテリアスタイルの中央食堂は7時50分にオープンし朝食にも対応しています。メニューも豊富に揃え、好みに応じてチョイスできます。

生協中央店ではお弁当、パンなどの軽食の他、文具やパソコン、日用品も購入できます。



■中央食堂

360°

クラブ & サークル活動

大学での学びは専門的な知識、技術を修得するばかりでなく、自主的な集団活動に励むことによって、自立性・協調性などを身に付け、人間性を高める必要があります。

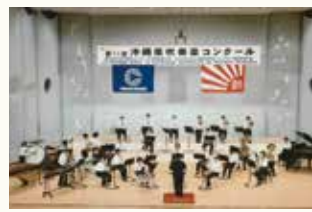
クラブ・サークル活動は、課外活動の代表的なもので、本学においても創立以来その活動は活発に行われています。



全学体育系クラブ・サークル／72



全学文化系クラブ・サークル／61



キャンパスマップ



A 大学本部棟



B 全保連ステーション
(大学会館)
(キャリア教育センター・入試課)

大学本部棟周辺



360°

大学を
体感
しよう



C 共通教育棟
(グローバル教育支援機構)



納骨堂

解剖法医棟

基礎講義実習棟

I 医学部

基礎研究棟

RI実験施設棟

臨床研究棟

附属動物実験施設棟

高エネルギー・高気圧治療施設棟

リニアク診療施設棟

総合臨床研修・救急災害医療棟

教育センター

医学部
入口

上原キャンパス

再生医療研究センター

保健学科棟

管理棟

附属図書館医学部分館

臨床講義棟

琉球大学病院

中央設備機械室

バス停
〈琉大附属病院前〉

琉球大学病院
入口

受水槽

那覇空港から琉球大学。



movie

沖縄自動車道

↑至 宜野湾我如古十字路

西原口
(南口)

モスバーガー

研究者交流施設
50周年記念館

国際交流会館

ウェルカム
プラザ

至 329号線↓

←至 首里

農学部附属亜熱帯フィールド科学
教育研究センター

圃場

畜産施設

園芸用ガラス室

環境安全施設



360°



movie

A 大学本部棟

教育学部 **E**

技術教育棟

音楽棟

教育実践棟

放送大学

地域国際学習センター

地域連携推進機構 地域共創企画室

国際教育センター(旧留学生センター)



movie

文系総合研究棟
法務研究科
(島嶼地域科学研究所)

バス停
〈琉大附属小学校〉

附属小学校

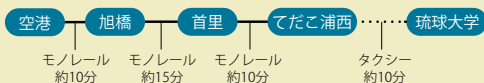
附属中学校

ファミリーマート

琉球大学へのアクセス

空港から琉球大学

モノレール&タクシー



高速バス

111 117 番線

●琉球バス・沖縄バス・那覇バス・東陽バスの4社が交互運行
※各20～40分に1本程度／所要時間:40～50分

113 123 152 番線

●琉球バス 経路 空港→沖縄自動車道→琉大入口下車
(琉大入口にて下車、琉大北口まで徒歩約4分)
※1時間に1本程度／所要時間:45分

モノレール首里駅から琉球大学

94 番線→琉大南口／北口方面

●那覇バス モノレール首里駅から琉大北口まで(平日のみ運行)
経路 首里駅前→汀良三丁目→城東小学校前→石嶺二丁目→
棚原→キリスト教短大入口→琉大附属病院前→
琉大附属小学校→琉大法文学部前(琉大北口行きのみ)→
琉大北口(終点)

那覇バスターミナルから琉球大学

路線バス

97 番線「琉大東口／北口方面」

●那覇バス 経路 バスターミナル→国際通り(牧志)→儀保(首里)→
琉大附属病院→琉大東口→琉大北口(終点)

98 番線「琉大北口方面」

●琉球バス 経路 バスターミナル→国際通り(牧志)→パイパス→
真栄原→沖国大前→琉大北口(終点)
※各20～40分に1本程度／所要時間:40～50分



■久米島キャンパス



■宮古島キャンパス



■石垣キャンパス

熱帯生物圏
研究センター
西表研究施設



沖縄県【緯度】26度13分【経度】127度41分

熱帯生物圏
研究センター
瀬底研究施設



■那覇キャンパス



■琉球大学



■国頭キャンパス



琉球大学海外・県外拠点



台北サテライトオフィス



ラオスサテライトオフィス



ハワイ/エゾンオフィス



東京オフィス

ブラジルサテライトオフィス / ドイツサテライトオフィス



2020年度

琉球大学概要

編集発行
琉球大学
総務部 総務課 広報係
令和2年8月発行

〒903-0213
沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
電話 (098) 895-8175
URL: //www.u-ryukyu.ac.jp/

